

# 仕訳 I

(日々の仕訳)

•

(財務諸表の作成)

## 目 次

### ◆ 仕訳 I

- I 一般原則 . . . . .
- II 土地改良区の会計事務の流れ . . . . .
- III 土地改良区の簿記 事務処理の流れ . . . . .
- IV 土地改良区の決算事務の流れ . . . . .
- V 簿記上の取引とは . . . . .
- VI 仕訳とは . . . . .
- VII 期中取引 . . . . .

### ◆ 決算整理事務から財務諸表の作成

- VIII 決算整理の手続 . . . . .
- IX 現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳、合計残高試算表 . . .
- X 精算表、正味財産増減計算書、貸借対照表、  
財務諸表に対する注記、財産目録 . . . . .

---

## I 一般原則

---

一般原則は、その文言が、すべて「でなければならない」または「してはならない」と表現されており、きわめて規範的な性格を持っているといえます。どんな業務でも「基本」や「原理原則」となる考え方が存在します。

ニュースなどで話題となる“不適切な会計処理”が起きる根本の原因には、本来、遵守しなければならないはずの「基本」や「原理原則」から逸脱した会計処理があるからです。

その基本原則となるのがここに示した「一般原則」です。これは、会計や経理の実務処理をする上で、慣習として発達したものの中から、一般に公正妥当と認められたところを要約し、その会計を処理するに当って従わなければならない基準として国の通知に示されています。

---

## II 土地改良区の会計事務の流れ

---

一会計期間の土地改良区の複式簿記会計事務の流れです。

決算関係書類作成及びその公表までの流れが示されています。

年度予算作成に続いて、取引があります。

土地改良区会計の成果品として決算関係書類が作られます。この中には、事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録が含まれます。

このテキストは、1年間を通じて土地改良区会計の記帳実務を、具体的に紹介することで複式簿記会計の全体像を把握することを目指したものです。

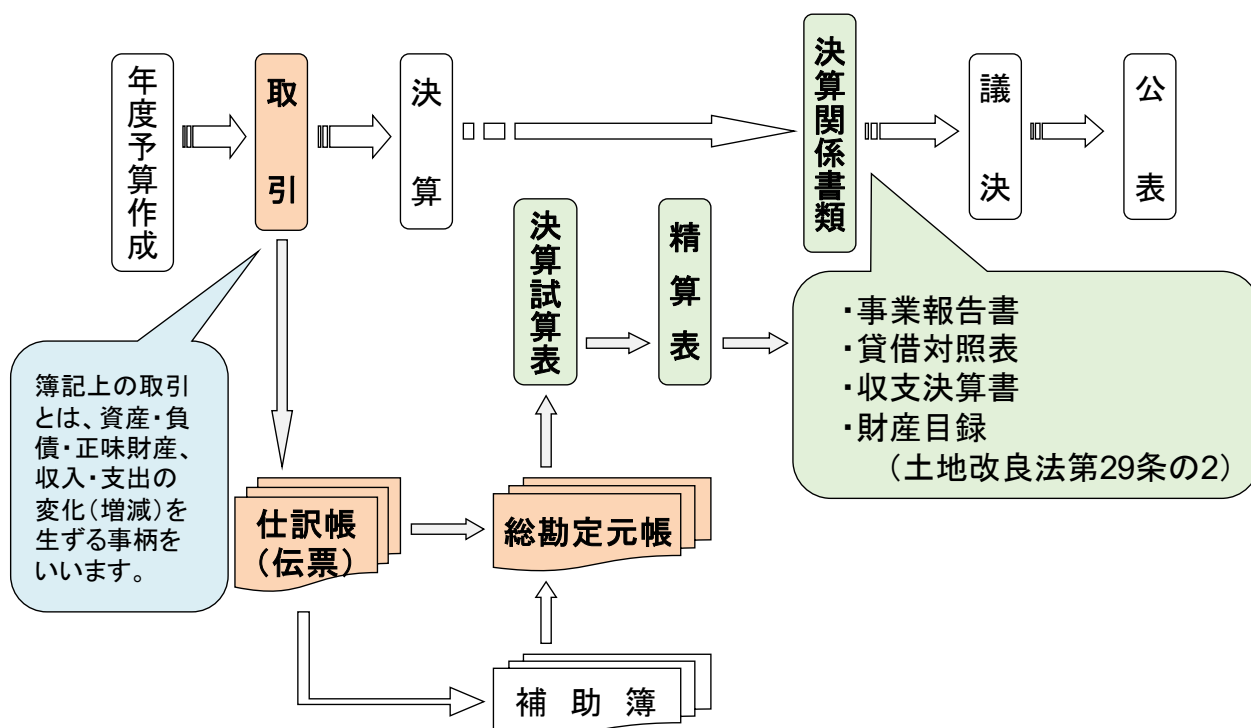
# I 一般原則 ( 土地改良区会計基準 第1の2 )

- (1) 財務諸表等は、資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況及び資金の収支に関する真実な内容を明瞭に表示するものでなければならない。
- (2) 財務諸表等は、正規の簿記の原則に従って正しく記帳された会計帳簿に基づいて作成しなければならない。
- (3) 土地改良区会計は、土地改良区の財政状況をできるだけ明瞭な形で反映するものでなければならない。
- (4) 会計処理の原則及び手続並びに財務諸表等の表示方法は、毎事業年度これを継続して適用し、みだりに変更してはならない。

(会計基準注解:注1)重要性の原則の適用について

土地改良区会計は、定められた会計処理の方法に従って正確な計算を行うべきものであるが、土地改良区会計の目的とするところは、土地改良区の財務内容を明らかにし、土地改良区の財政状況に関する利害関係者の判断を誤らせないようにすることにあるから、重要性の乏しいものについては、本来の厳密な会計処理によらないで他の簡便な方法によることも正規の簿記の原則に従った処理として認められる。

## II 土地改良区の会計事務の流れ



### Ⅲ 土地改良区の複式簿記 事務処理の流れ

---

簿記とは、「財産の増減」や、「正味財産の増減の発生原因」を記録して、貸借対照表及び正味財産増減計算書等の財務諸表を作成するための技術的な手段としての役割をもっています。

- ・「取引の発生」とは、「簿記上の取引の発生」を捕捉すること。
  - ・「仕訳をする」とは、取引の内容を把握し、一定の情報を記録し分類すること。  
発生年月日、勘定科目名、金額、取引内容(適用)等。
  - ・「総勘定元帳に転記する」とは、総勘定元帳の該当科目に、仕訳した結果を書き写すこと。
  - ・「試算表を作成する」とは、仕訳から総勘定元帳に転記する際にミスが無かったかを検証するため、月末や決算時に作成する表のこと。
  - ・「決算整理をする」とは、決算期末の残高試算表に基づいて、決算時における未収金や未払金の計上、減価償却費の計上などの期末の会計処理を行うこと。
  - ・「帳簿を締め切る」とは、決算整理によって、資産・負債・正味財産・収入・支出に属する勘定の記録が正しければ、勘定の残高などを「ゼロ」にし資産、負債、正味財産の残高を次期に繰り越し、当期と次期の区切りを付ける必要があります。この手続を帳簿の締め切りといいます。
  - ・「正味財産増減計算書の作成、貸借対照表の作成」とは、精算表に示された各勘定の残高のうち、正味財産増減計算書に関係するもの（収入及び支出に属する勘定科目）を正味財産増減計算書に、収入・支出計算に関係しないもの（資産、負債及び正味財産に属する勘定科目）を貸借対照表に転記し財務諸表を作成することです。
- 以上の手続きを每期繰り返していきます。

### Ⅳ 土地改良区の決算事務の流れ

---

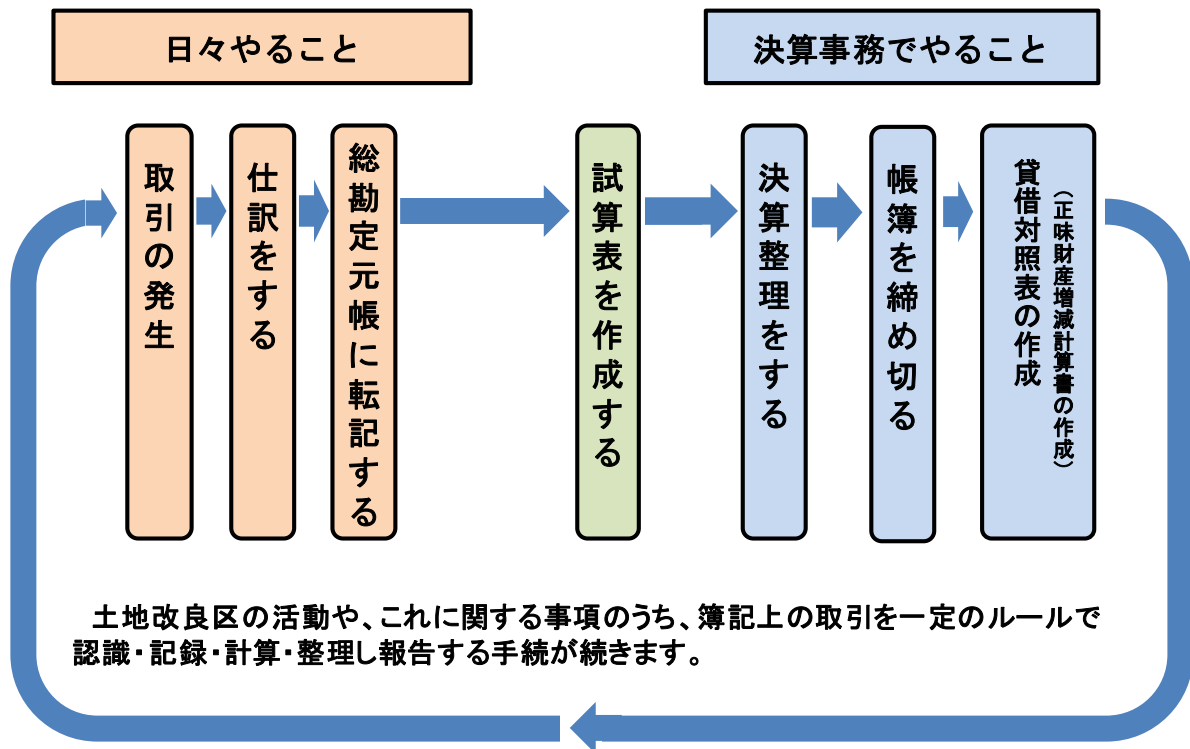
複式簿記の決算事務の流れを示しています。

殆どの土地改良区の会計は、×1年4月1日から始まり×2年3月31日で終了します。

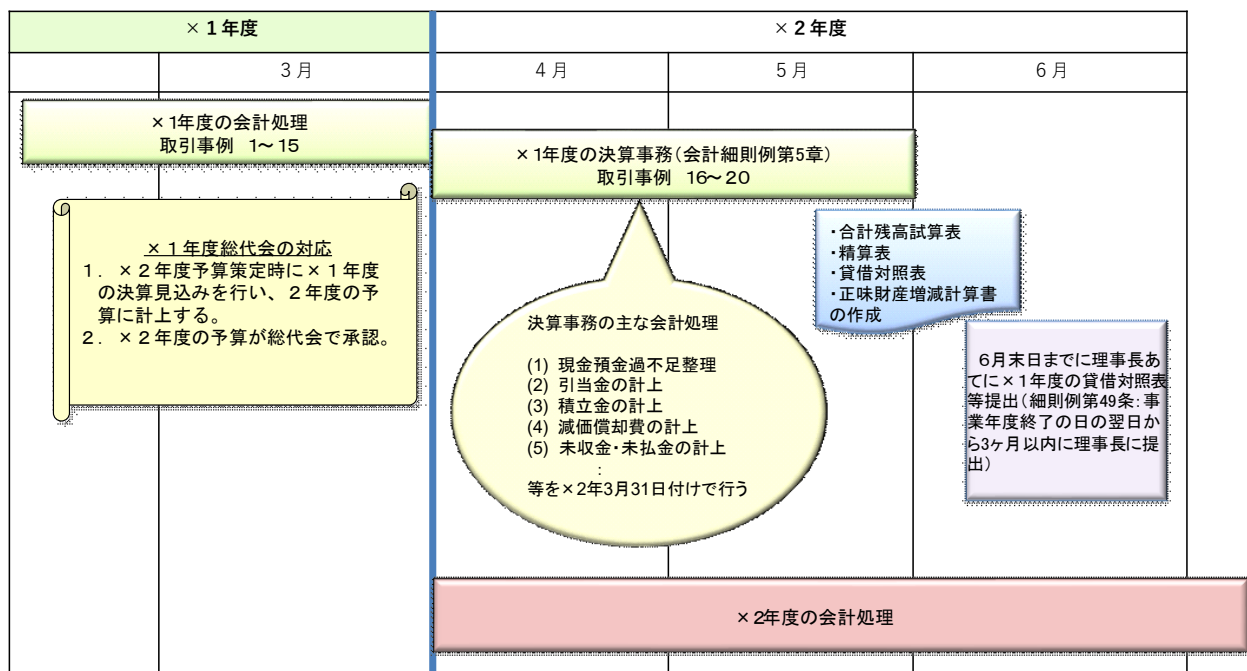
×2年4月1日からは、×1年度の決算事務に取りかかります。

決算事務の間にとりまとめられた財務諸表や収支決算書及び財産目録は、会計細則例第49条のとおり×2年6月末までに理事長に提出します。同時に×2年4月1日から×2年度の会計が始まります。

### Ⅲ 土地改良区の複式簿記 事務処理の流れ



### Ⅳ 土地改良区の決算事務の流れ



## ＜参考＞ 自社で経理を行っている中小企業のスケジュールの例

参考までに自社で経理を行なっている中小企業の会計スケジュールの例を示しました。決算前に済ませておくことが多く、決算に当たり事前の準備が重要かがわかるかと思えます。土地改良区の会計においても同じです。

「決算方針の決定」とは、例えば、黒字が見込まれる場合は、翌期以降の経営資源としてどれだけ内部留保するのか、有効な節税対策はないのか、など、将来に向けた戦略的な視点をもって、適切な手を打つことです。一方、赤字で金融機関からの資金調達に不安がある場合は、少しでも当期の損失を減らす方法がないかを検討します。

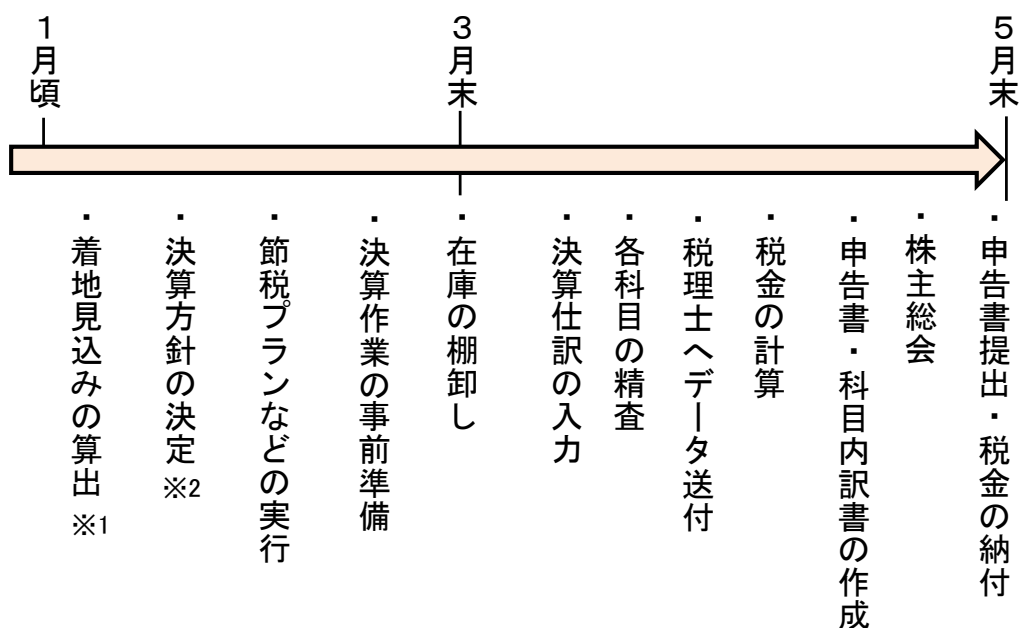
---

## V 「簿記上の取引とは」

---

簿記上の取引とは、土地改良区の資産・負債・正味財産の増減をもたらす事象をいいます。このような「簿記上の取引」以外は記録しません。

## <参考> 自社で経理を行っている中小企業のスケジュールの例



※1.着地見込みの算出:今期のこれまでの営業実績や過去の傾向などから、今期の決算でどの程度の利益が出るのか、または、赤字になるのかを予測することや今期の決算を予測することです。

※2.決算方針の決定:例えば、黒字が見込まれる場合は、翌期以降の経営資源としてどれだけ内部留保するのか、有効な節税対策はないのかなど、将来に向けた戦略的な視点をもって、適切な手を打つことです。  
一方、赤字で金融機関からの資金調達に不安がある場合は、少しでも当期の損失を減らす方法がないかを検討します。

## V 「簿記上の取引」とは

### <簿記上の取引とは>

#### 1. 簿記上の取引

土地改良区は、その活動の中で、私たちが一般に取引と認識しているような行為をしています。しかし、簿記ではその全ての取引を記録するのではなく、「簿記上の取引」だけを記録します。

簿記上の取引とは、土地改良区の資産・負債・正味財産の増減及び、収入・支出が発生する取引をいいます。

#### 2. 一般にいう取引との違い

一般にいう取引と簿記上の取引とは、その範囲が異なりますので注意してください。

##### ① 簿記上の取引となる一般の取引

「寄付金を現金で受け取る」と、「寄付金収入」という収入が発生すると同時に、「現金」という資産が増加します。一方で、給料を支払うと「人件費」という支出が発生すると同時に「現金」という資産が減少します。このような取引は、一般にも取引といいますが、取引が発生するとともに、資産・負債等が増減し、関連して収入や支出が発生していますので、簿記上の取引であるといえます。この場合の仕訳は、前者は「現金及び預金(資産)/寄付金収入(収入)」となり後者は「給与手当(支出)/現金及び預金(資産)」となります。

##### ② 簿記上の取引でない一般の取引

建物や土地を借りる契約をしたり仕入先に商品を電話で注文するなど、単に契約や約束をするだけでは資産・負債等が増減しませんので簿記上の取引にはなりません。商品を注文したり借金の契約書を交わした時点で、契約は成立しますが、簿記では、実際に品物やお金などの資産などが動かなければ取引とは考えません。

##### ③ 簿記上の取引だが、一般に取引と叫ばないもの

現金や備品が盗まれたり火災により建物が焼失するなど盗難や災害が起きたときは、一般的には取引とはいいませんが、資産負債等が減少しますので、簿記上の取引になります。

災害によって所有土地改良施設が滅失したような場合の仕訳は、「災害損失(経常外支出)/所有土地改良施設(固定資産)」と仕訳します。



## VI 仕訳とは

---

日々の取引は、仕訳という簿記独特の方法によって帳簿に記録します。

仕訳とは、取引の内容を表す用語と金額のみで取引を表す方法をいい、取引の内容を表す用語のことを勘定科目とといいます。

簿記では、取引によって増減した勘定を資産、負債、正味財産、収入、支出の5つの要素に分けて処理するというルールがあります。そして、勘定科目は、資産、負債、正味財産、収入、支出のいずれかに分類します。

このようにひらがなにしてみても、借方は左側、貸方は右側と覚えてください。

仕訳は、簿記上の取引と判断された事象を簿記の基本的な5つの要素で分類し、さらに勘定科目名を決定し、勘定科目の借方か貸方かを決定し、記入する金額を決定する手順をいいます。

記入する勘定科目の決定は、土地改良区会計基準の科目一覧に提示されている勘定科目に従います。勘定科目の借方か貸方かの決定は、勘定記入のルールに従います。

## VI 仕訳とは

簿記では、取引を仕訳帳に記入する際に、それぞれの取引について、どの勘定のどちら側（借方or貸方）にいくら記入するかを決めます。この手続を「仕訳」といいます。仕訳によって取引をどの勘定科目を用いて記入すればよいか明確になり、記入洩れや記入ミスを防ぐことができます。

仕訳は簿記の基本となる最も重要な手続なので確実に理解しましょう。

### 1. 仕訳のルール（勘定記入のルール）

仕訳のルールとは、勘定科目ごとの増減を「借方」、「貸方」のどちら側に記入するのかという決まりのことです。

勘定には、5つの要素の資産・負債・正味財産・収入・支出のそれぞれについて、増加と減少を記入する側が次のように決まっています。

#### 重要!

資 産	.....	増加を借方に、減少を貸方に記入します。
負 債	.....	減少を借方に、増加を貸方に記入します。
正味財産	.....	減少を借方に、増加を貸方に記入します。
収 入	.....	減少を借方に、増加を貸方に記入します。
支 出	.....	増加を借方に、減少を貸方に記入します。

借方	貸方
資産増加	資産減少
負債減少	負債増加
正味財産減少	正味財産増加
収入減少	収入増加
支出増加	支出減少

### 2. 仕訳の手順

仕訳は次の手順で行います。

- ① 取引を分解して二面（原因と結果）で認識をする。
- ② 勘定科目を決める。借方（左側）、貸方（右側）が決まる。
- ③ 金額を決める。

かり方 ← 左側  
かし方 → 右側

## Ⅶ 期中取引

---

### (1) 開始貸借対照表

複式簿記会計導入に当たって、期首における資産および負債の勘定科目毎の実際有高を調べ、「開始貸借対照表」を作ります。

期首における資産、負債価額の一覧ということになります。前期末の財産目録と同じものです。

### (2) 土地改良区における期中取引

土地改良区で想定される取引を示してみました。

収入勘定として、経常賦課金、支出勘定として、運営事務費などがあります。

次に、日々の会計処理のうち、命令書の起案、整理簿への記帳、現金預金出納帳への記帳は、単式簿記会計の時の処理と同じです。

9番で現金の収支を伴わない会計細則例第32条に規定されている振替命令書が出てきます。これは単式簿記には無かった命令書ですので注意してください。振替命令書で記入する借方および貸方の勘定科目は仕分けで使用した勘定科目を記入します。

### <参考>

会計細則例第52条（収支決算書等の作成）は、「現金預金出納帳、収入簿及び支出簿の各口座を締め切らせ、収入簿及び支出簿の各款、項、目及び節の累計を科目配列の順に列記して収支決算書を作成させるものとする」とあります。このことから、単式簿記の収支決算書と複式簿記の収支決算書は同じ作りとなることが分かります。

## 開始貸借対照表

貸借対照表		単位：円	
		×1年4月1日現在	
科目	金額	備考	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金及び預金	1,000,000		
流動資産合計	1,000,000		
2 固定資産			
(1) 基本財産			
山林、宅地及びその従物	100,000,000		
固定資産合計	100,000,000		
(2) 特定資産			
所有土地改良施設	375,000,000		取得価額5億円（譲与） 耐用年数40年、10年経過 年減価償却額1,250万円 土地改良区負担額 無し
特定資産合計	375,000,000		
(3) その他固定資産			
建物	20,000,000		取得価額3,000万円 耐用年数30年、10年経過 年減価償却額100万円
車両運搬具	600,000		取得価額120万円 耐用年数10年、5年経過 年償却額12万円
器具備品	1,000,000		取得価額200万円 耐用年数10年、5年経過 年償却額20万円
その他固定資産合計	21,600,000		
資産合計	497,600,000		
II 負債の部			
0	0		
III 正味財産の部			
1 指定正味財産の部	375,000,000		
（うち基本財産への充当額）	0		
（うち特定資産への充当額）	375,000,000		
2 一般正味財産の部	122,600,000		
（うち基本財産への充当額）	100,000,000		
（うち特定資産への充当額）	0		
正味財産合計	497,600,000		
負債及び正味財産合計	497,600,000		

## 土地改良区会計における期中取引

### 通常の取引

取引概要 番号	取引概要	取引月日	命令簿	仕訳と勘定科目	
				借方	貸方
1	短期運営資金の借入	4月1日	収入命令書	現金及び預金	短期借入金
2	電気料金の支払い	5月1日	支出命令書	水道光熱費	現金及び預金
3	来客用お茶代の支払い	5月10日	支出命令書	雑費	現金及び預金
4	消耗品代の支払い	5月20日	支出命令書	消耗什器備品費	現金及び預金
5	維持管理適正化事業拠出金 第1期分の拠出	6月1日	支出命令書	適正化事業拠出金	現金及び預金
6	土地改良区職員へ賞与支給	7月1日	支出命令書	給料手当	現金及び預金
7	土地改良区職員から源泉所得税預り金	7月1日	収入命令書	現金及び預金	預り金
8	源泉所得税の納付	8月1日	支出命令書	預り金	現金及び預金
9	本年度経常賦課金の賦課	8月1日	振替命令書	未収経常賦課金	経常賦課金
10	本年度経常賦課金の納付	9月1日	収入命令書	現金及び預金	未収経常賦課金
11	県営土地改良事業分担金の納付	12月1日	支出命令書	都道府県営事業分担金	現金及び預金
12	土地改良施設管理者保険料の支払い	2月1日	支出命令書	支払保険料	現金及び預金
13	土地改良施設管理用車両の新規購入	2月1日	支出命令書	車両運搬具	現金及び預金
14	4月1日に借り入れた短期運営資金の元本返済	3月31日	支出命令書	短期借入金	現金及び預金
15	4月1日に借り入れた運営資金の利息の支払い	3月31日	支出命令書	借入金利息（経常外）	現金及び預金

## 1. 短期運営資金の借入

- ◆ 取引概要：農協からの借入れであり、収入命令書、現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴います。補助簿である区債及び借入金台帳の整理をします。なお、この600万円の借入額は、総代会で承認を受けた借入金の限度額の範囲内であり、収支予算書には計上されていない収支計算外出納であるため、収入整理簿への記帳はしません。
- (1) 収入命令書：「様式7-1」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「短期運営資金。なお、収入整理簿記載対象外」とした取引の要約を記入します。
- (2) 現金預金出納帳：「様式2」を用い、所要事項を記入します。入金欄に600万円と記入します。摘要欄には収支計算外出納であることから便宜、「短期借入金」と記入します。
- (3) 収入整理簿：収支計算外出納のため記入すべき内容はありません。
- (4) 仕訳帳：「様式5」を用い所要事項を記入します。農協からの借入金である600万円は現金の入手であり、勘定科目は借方に「現金及び預金」を用い記入します。一方、貸方には負債の勘定科目である「短期借入金」を用い記入します。仕訳で使用している勘定科目は、土地改良区会計基準第1の5の別表第1の科目一覧表「貸借対照表」及び「正味財産増減計算書」で掲げる勘定を使用します。以下同様です。
- (5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を記入します。「現金及び預金」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「短期借入金」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。以降、各様式については一部の項目を省略をしているので会計細則例の様式を参考にしてください。

## 2. 電気料金の支払い

- ◆ 取引概要：電力会社に対する電気料金の支払いであり、支出命令書、支出整理簿、現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴うものとなります。
- (1) 支出命令書：「様式7-2」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「事務所電気料金4月分」とした取引の要約を記入します。
- (2) 現金預金出納帳：「様式2」を用い、所要事項を記入します。出金欄に4,000円と記入します。摘要欄の款・項・目等は収支予算書より記入します。
- (3) 支出整理簿：「様式4」を用い、所要事項を記入します。款・項・目等を勘定科目に掲げた支出整理簿の当該頁に記入します。摘要欄に「事務所電気料金4月分」とし、支出額欄に4,000円を記入します。
- (4) 仕訳帳：「様式5」を用い、所要事項を記入します。事務所電気料金である4,000円について、借方に支出の勘定科目である「水道光熱費」を用い記入します。一方、4,000円は現金の出金であり、貸方に「現金及び預金」を用い記入します。
- (5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を転記します。「水道光熱費」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「現金及び預金」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

# 1. 短期運営資金の借入

取引概要： ×1年4月1日、短期の運営資金を農協から年利2%（初日不算入）で600万円借りた。

必要書類： 1. 収入命令書 2. 現金預金出納帳 3. ~~収入整理簿~~ 4. 仕訳帳、総勘定元帳

## 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、運営資金を借りた（負債の増加）。結果、現金（資産）が増えた。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：資産としての（現金及び預金）が増加したので借方へ、負債としての（借入金）が増加したので貸方へ。

### 収入命令書

起案日 ×1年4月1日  
（略）  
同じ  
一金6,000,000円也（但し、短期運営資金。なお、収入整理簿記帳対象外）

### 収入整理簿

款：項：目：			
月日	摘要	収入額	累計額

※収支計算外出納のため記帳されない。

### 総勘定元帳 (現金及び預金)

月日	摘要	借方	貸方	残高
4/1	短期借入金		6,000,000	略

### 現金預金出納帳

月日	摘要	入金	出金	残高
4/1	短期借入金	6,000,000		略

※収支予算書に計上されていないため、摘要欄には収入金の性格を端的に記すものとする。

### 仕訳帳

月日	摘要	借方	貸方
4/1	現金及び預金	6,000,000	
	短期借入金 (運営資金の借入)		6,000,000

### 総勘定元帳 (短期借入金)

月日	摘要	借方	貸方	残高
4/1	現金及び預金		6,000,000	略

# 2. 電気料金の支払い

取引概要： ×1年5月1日、東京電力へ電気料金4月分として4,000円支払った。

必要書類： 1. 支出命令書 2. 現金預金出納帳 3. 支出整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳

## 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、電気料金を支払った（支出の発生）。結果、現金（資産）が減った。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：支出としての（水道光熱費）が増加したので借方へ、資産としての（現金及び預金）が減少したので貸方へ。

### 支出命令書

起案日 ×1年5月1日  
（略）  
同じ  
一金4,000円也（但し、事務所電気料金4月分）

### 支出整理簿

款：一般管理費支出 項：事務所費支出 目：水道光熱費			
月日	摘要	支出額	累計額
5/1	事務所電気料金4月分	4,000	略

### 総勘定元帳 (水道光熱費)

月日	摘要	借方	貸方	残高
5/1	現金及び預金	4,000		略

### 現金預金出納帳

月日	摘要	入金	出金	残高
5/1	款：一般管理費支出 項：事務所費支出 目：水道光熱費		4,000	略

### 仕訳帳

月日	摘要	借方	貸方
5/1	水道光熱費	4,000	
	現金及び預金 (事務所電気料金4月分)		4,000

### 総勘定元帳 (現金及び預金)

月日	摘要	借方	貸方	残高
5/1	水道光熱費		4,000	略

### **3. 来客用お茶代の支払い**

- ◆ 取引概要：静岡茶店に対する来客用茶代の支払いであり、支出命令書、支出整理簿、現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴うものとなります。
- (1) 支出命令書：「様式7-2」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「来客用茶代」とした取引の要約を記入します。
- (2) 現金預金出納帳：「様式2」を用い、所要事項を記入します。出金欄に2,000円を記帳する。摘要欄の款・項・目等は収支予算書より記入します。
- (3) 支出整理簿：「様式4」を用い、所要事項を記入します。款・項・目等を勘定科目に掲げた支出整理簿の当該頁に記入します。摘要欄に「来客用茶代」とし、支出額欄に2,000円を記入します。
- (4) 仕訳帳：「様式5」を用い、所要事項を記帳します。静岡茶店へ支払う2,000円について、借方に、支出の勘定科目である「雑費」を用い記入します。一方、2,000円は現金の出金であり貸方に「現金及び預金」を用い記入します。
- (5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を転記します。「雑費」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「現金及び預金」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

### **4. 消耗品代の支払**

- ◆ 取引概要：山田文具店に対する消耗品代の支払案件であり、支出命令書、支出整理簿、現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴うものとなります。
- (1) 支出命令書：「様式7-2」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「消耗品代」とした取引の要約を記入します。
- (2) 現金預金出納帳：「様式2」を用い、所要事項を記入します。出金欄に1,000円を記入する。摘要欄の款・項・目等は予算書より記入します。
- (3) 支出整理簿：「様式4」を用い、所要事項を記入します。款・項・目等を勘定科目に掲げた支出整理簿の当該頁に記入します。摘要欄に「消耗品代」とし、支出額欄に1,000円を記入します。
- (4) 仕訳帳：「様式5」を用い、所要事項を記入します。山田文具店へ支払う1,000円について、借方に支出の勘定科目である「消耗什器備品費」を用い記入します。一方、1,000円は現金の出金であり貸方に「現金及び預金」を用い記入します。
- (5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を転記します。「消耗什器備品費」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「現金及び預金」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

### 3. 来客用お茶代の支払い

取引概要： ×1年5月10日、静岡茶店へ来客用茶代として2,000円支払った。

必要書類： 1. 支出命令書 2. 現金預金出納帳 3. 支出整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳

#### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、来客用茶代を支払った(支出の発生)。結果、現金(資産)が減った。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：支出としての(雑費)が発生したので借方へ、資産としての(現金及び預金)が減少したので貸方へ。

支出命令書					現金預金出納帳						
起案日 ×1年5月10日 (略) 伺い 一金2,000円也 (但し、来客用茶代)					月日	摘要	入金	出金	残高		
					5/10	款:一般管理費支出 項:運営事務費支出 目:雑費		2,000	略		
支出整理簿					仕訳帳						
款:一般管理費支出 項:運営事務費支出 目:雑費					月日	摘要	借方	貸方			
月日	摘要	支出額	累計額		5/10	雑費 現金及び預金 (来客用茶代)	2,000	2,000			
5/10	来客用茶代	2,000	略								
総勘定元帳 (雑費)					総勘定元帳 (現金及び預金)						
月日	摘要	借方	貸方	残高	月日	摘要	借方	貸方	残高		
5/10	現金及び預金	2,000		略	5/10	雑費		2,000	略		

### 4. 消耗品代の支払い

取引概要： ×1年5月20日、山田文具店へ消耗品代として1,000円支払った。

必要書類： 1. 支出命令書 2. 現金預金出納帳 3. 支出整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳

#### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、消耗品を購入した(支出)。結果、現金(資産)が減った。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：支出としての(消耗什器備品費)が増加したので借方へ、資産としての(現金及び預金)が減少したので貸方へ。

支出命令書					現金預金出納帳					
起案日 ×1年5月20日 (略) 伺い 一金1,000円也 (但し、消耗品代)					月日	摘要	入金	出金	残高	
					5/20	款:一般管理費支出 項:運営事務費支出 目:消耗什器備品費		1,000	略	
支出整理簿					仕訳帳					
款:一般管理費支出 項:運営事務費支出 目:消耗什器備品費					月日	摘要	借方	貸方		
月日	摘要	支出額	累計額		5/20	消耗什器備品費 現金及び預金 (消耗品代)	1,000	1,000		
5/20	消耗品代	1,000	略							
総勘定元帳 (消耗什器備品費)					総勘定元帳 (現金及び預金)					
月日	摘要	借方	貸方	残高	月日	摘要	借方	貸方	残高	
5/20	現金及び預金	1,000		略	5/20	消耗什器備品費		1,000	略	



## **5. 維持管理適正化事業拠出金 第1期分の拠出**

◆ 取引概要：取引概要から、全土連（〇〇県土連）に対する維持管理適正化事業第一期拠出金の支払案件であり、支出命令書、支出整理簿、現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴うものとなります。

- (1) 支出命令書：「様式7-2」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「適正化事業拠出金第一期分」とした取引の要約を記入します。
- (2) 現金預金出納帳：「様式2」を用い、所要事項を記入します。出金欄に150万円を記入します。摘要欄の款・項・目等は予算書より記入します。
- (3) 支出整理簿：「様式4」を用い所要事項を記入します。款・項・目等を勘定科目に掲げた支出整理簿の当該頁に記入します。摘要欄に「適正化事業拠出金第一期分」とし、支出額欄に150万円を記入します。
- (4) 仕訳帳：「様式5」を用い、所要事項を記入します。全土連（〇〇県土連）へ支払う150万円について、借方に資産の勘定科目である「適正化事業拠出金」を用い記入します。一方、150万円は現金の出金であり、貸方に「現金及び預金」を用い記入します。
- (5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を転記します。「適正化事業拠出金」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「現金及び預金」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

## **6. 土地改良区職員へ賞与支給**

◆ 取引概要：土地改良区職員に対する職員賞与の支払案件であり、支出命令書、支出整理簿、現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴うものとなります。

- (1) 支出命令書：「様式7-2」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「職員賞与」とした取引の要約を記入します。
- (2) 現金預金出納帳：「様式2」を用い、所要事項を記入します。出金欄に50万円を記入します。摘要欄の款・項・目等は予算書より記入します。
- (3) 支出整理簿：「様式4」を用い、所要事項を記入します。款・項・目等を勘定科目に掲げた支出整理簿の当該頁に記入します。摘要欄に「職員賞与」とし、支出額欄に50万円を記入します。
- (4) 仕訳帳：「様式5」を用い、所要事項を記入します。職員へ支払う50万円について、借方に、支出の勘定科目である「運営事務費」を用い記入します。一方、50万円は現金の出金であり、貸方に「現金及び預金」を用い記入します。
- (5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を転記します。「運営事務費」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「現金及び預金」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

## 5. 維持管理適正化事業拠出金 第1期分の拠出

取引概要： ×1年6月1日、維持管理適正化事業第1期分の拠出金として150万円拠出した。事業実施は3年度目を計画。

必要書類： 1. 支出命令書 2. 現金預金出納帳 3. 支出整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、適正化事業拠出金の拠出（資産の増加）。結果、現金（資産）が減った。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：資産としての（適正化事業拠出金）が増加したので借方へ、資産としての（現金及び預金）が減少したので貸方へ。

支出命令書					現金預金出納帳				
起案日 ×1年6月1日 (略) 同い 一金1,500,000円也 (但し、適正化事業拠出金第1期分)					月日	摘要	入金	出金	残高
					6/1	款：土地改良事業費支出 項：適正化事業拠出金支出 目：適正化事業拠出金		1,500,000	略

支出整理簿				仕訳帳			
款：土地改良事業費支出 項：適正化事業拠出金支出 目：適正化事業拠出金				月日	摘要	借方	貸方
月日	摘要	支出額	累計額				
6/1	適正化事業拠出金第一期分	1,500,000	略	6/1	適正化事業拠出金 現金及び預金 (適正化事業拠出金第1期分)	1,500,000	1,500,000

総勘定元帳 (適正化事業拠出金)					総勘定元帳 (現金及び預金)				
月日	摘要	借方	貸方	残高	月日	摘要	借方	貸方	残高
6/1	現金及び預金	1,500,000		略	6/1	適正化事業拠出金		1,500,000	略

## 6. 土地改良区職員へ賞与支給

取引概要： ×1年7月1日、土地改良区職員に賞与として50万円を支給した。

必要書類： 1. 支出命令書 2. 現金預金出納帳 3. 支出整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、職員に賞与（支出の発生）を支給。結果、現金（資産）が減った。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：支出としての（給料手当）が増加したので借方へ、資産としての（現金及び預金）が減少したので貸方へ。

支出命令書					現金預金出納帳				
起案日 ×1年7月1日 (略) 同い 一金500,000円也 (但し、職員賞与)					月日	摘要	入金	出金	残高
					7/1	款：一般管理費支出 項：運営事務費支出 目：賞与支払		500,000	略

支出整理簿				仕訳帳			
款：一般管理費支出 項：運営事務費支出 目：賞与支払				月日	摘要	借方	貸方
月日	摘要	支出額	累計額				
7/1	職員賞与	500,000		7/1	給料手当 現金及び預金 (職員賞与)	500,000	500,000

総勘定元帳 (給料手当)					総勘定元帳 (現金及び預金)				
月日	摘要	借方	貸方	残高	月日	摘要	借方	貸方	残高
7/1	現金及び預金	500,000		略	7/1	給料手当		500,000	略

## 7. 土地改良区職員から源泉所得税預り金

◆ 取引概要：職員からの源泉所得税徴収額預り金の収入案件であり、収入命令書、現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴うものとなります。なお、この預り金は収支計算外出納に当たるものであり、予算書には計上されていないため収入整理簿への記帳はありません。

- (1) 収入命令書：「様式7-1」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「源泉所得税徴収額預り金」とした取引の要約を記入します。
- (2) 現金預金出納帳：「様式2」を用い、所要事項を記入します。入金欄に5万円と記入します。摘要欄には収支計算外出納であることから便宜、「源泉所得税徴収額預り金」と記入します。
- (3) 収入整理簿：収支計算外出納のため記入すべき内容はありません。
- (4) 仕訳帳：「様式12」を用い、所要事項を記入します。土地改良区職員からの預り金5万円は現金の入金であり、借方に「現金及び預金」を用い記入します。一方、貸方には負債の勘定科目である「預り金」を用い記入します。
- (5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を転記します。「現金及び預金」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「預り金」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

## 8. 源泉所得税の納付

◆ 取引概要：源泉所得税預り金の納付案件であり、支出命令書、現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴うものとなります。なお、この預り金は収支計算外出納に当たるものであり、予算には計上されないため支出整理簿への記帳は要しません。

- (1) 支出命令書：「様式7-2」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「源泉所得税預り金の納付」とした取引の要約を記入します。
- (2) 現金預金出納帳：「様式2」を用い、所要事項を記入します。出金欄に5万円を記入します。摘要欄には収支計算外出納であることから便宜、「源泉所得税預り金の納付」と記入します。
- (3) 支出整理簿：収支計算外出納のため記入すべき内容はありません。
- (4) 仕訳帳：「様式5」を用い、所要事項を記入します。源泉所得税徴収額預り金5万円の納付であり、借方に、「預り金」と金額を記します。一方、この預り金は現金により納付するため、貸方に「現金及び預金」を用い記入します。
- (5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を記入します。「預り金」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「現金及び預金」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

## 7. 土地改良区職員から源泉所得税預り金

取引概要： ×1年7月1日、職員賞与から所得税の源泉徴収として現金5万円を徴収した。

必要書類： 1. 収入命令書 2. 現金預金出納帳 ~~3. 収入整理簿~~ 4. 仕訳帳、総勘定元帳

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、所得税を源泉徴収した（預り金＝負債）。結果、現金（資産）が増えた。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：資産としての（現金及び預金）が増加したので借方へ、負債としての（預り金）が増加したので貸方へ。

#### 収入命令書

起案日 ×1年7月1日  
(略)  
 同い  
 一金50,000円也 (但し、所得税源泉徴収預り金)

#### 収入整理簿

月日	摘要	収入額	累計額

※収支計算外出納のため記帳しない。

#### 総勘定元帳 (現金及び預金)

月日	摘要	借方	貸方	残高
7/1	預り金		50,000	略

#### 現金預金出納帳

月日	摘要	入金	出金	残高
7/1	所得税源泉徴収預り金	50,000		略

※収支計算書に計上されていないため、摘要欄には収入金の性格を端的に記すものとする。

#### 仕訳帳

月日	摘要	借方	貸方
7/1	現金及び預金	50,000	
	預り金		50,000
	(所得税源泉徴収預り金)		

#### 総勘定元帳 (預り金)

月日	摘要	借方	貸方	残高
7/1	現金及び預金		50,000	略

## 8. 源泉所得税の納付

取引概要： ×1年8月1日、源泉徴収した所得税5万円を納付した。

必要書類： 1. 支出命令書 2. 現金預金出納帳 (出金欄に50,000と記帳する。) ~~3. 支出整理簿~~  
 4. 仕訳帳、総勘定元帳

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、所得税（預り金＝負債）を納付。結果、現金（資産）が減った。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：負債としての（預り金）が減少したので借方へ、資産としての（現金及び預金）が減少したので貸方へ。

#### 支出命令書

起案日 ×1年8月1日  
(略)  
 同い  
 一金50,000円也 (但し、所得税源泉徴収預り金の納付)

#### 支出整理簿

月日	摘要	支出額	累計額

※収支計算外出納のため記帳しない。

#### 総勘定元帳 (預り金)

月日	摘要	借方	貸方	残高
8/1	現金及び預金	50,000		略

#### 現金預金出納帳

月日	摘要	入金	出金	残高
8/1	所得税源泉徴収預り金の納付		50,000	略

#### 仕訳帳

月日	摘要	借方	貸方
8/1	預り金	50,000	
	現金及び預金		50,000
	(所得税源泉徴収預り金の納付)		

#### 総勘定元帳 (現金及び預金)

月日	摘要	借方	貸方	残高
8/1	預り金		50,000	略

## 9. 本年度経常賦課金の賦課

◆ 取引概要：本年度経常賦課金の賦課調定の案件であり、振替命令書、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴うものとなります。なお、収入整理簿、現金預金出納帳については、この8月10日時点では入金がないため記入すべき内容はありません。なお、補助簿である賦課金台帳、賦課金徴収原簿の整理を要します。

(1) 振替命令書：この取引は「様式7-3」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「経常賦課金の賦課」とした取引の要約を記入します。振替命令書で記入する借方および貸方の勘定科目は仕分けで使用した勘定科目を記入します。

(2) 現金預金出納帳：記入すべき内容はありません。

(3) 収入整理簿：記入すべき内容はありません。

(4) 仕訳帳：「様式5」を用い、所要事項を記入します。本年度経常賦課金2,000万円の賦課であり、借方に資産の勘定科目「未収経常賦課金」を用い記入します。一方、貸方には収入の勘定科目である「経常賦課金」を用い記入します。

5 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を記入します。「未収経常賦課金」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「経常賦課金」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

## 10. 本年度経常賦課金の納付

◆ 取引概要：組合員からの本年度経常賦課金の納付案件であり、収入命令書、収入整理簿、現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳への記帳をいします。なお、補助簿である賦課金台帳、賦課金徴収原簿の整理を要します。

1 収入命令書：「様式7-1」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「経常賦課金の納付」とした取引の要約を記入します。

2 現金預金出納帳：「様式2」を用い、所要事項を記入します。入金欄に1,500万円を記入します。摘要欄の款・項・目等は予算書より記入します。

3 収入整理簿：「様式3」を用い、所要事項を記入します。款・項・目等を勘定科目に掲げた収入整理簿の当該頁に記入します。摘要欄には「経常賦課金の納付」とし、入金欄に1,500万円を記入します。

4 仕訳帳：「様式12」を用い、所要事項を記入します。経常賦課金の納付があった1,500万円について、借方に、収入の勘定科目である「現金及び預金」を用い記入します。一方、1,500万円は未収賦課金等の減少であることから、貸方側に金額を用い記入します。

5 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を記入します。「現金及び預金」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「未収賦課金等」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

## 9. 本年度経常賦課金の賦課

取引概要： ×1年8月10日、土地改良区組合員に対する本年度経常賦課金2,000万円を賦課した。

必要書類： 1. 振替命令書 2. 現金預金出納帳 3. 収入整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳 5. 賦課金台帳、賦課金徴収原簿

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、本年度賦課金調定額を収入として計上。結果、未収金（資産）が増加した。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：資産としての（未収経常賦課金）が増加したので借方へ、収入として（経常賦課金）が増加したので貸方へ。

振替命令書					現金預金出納帳					
起家日 ×1年8月10日 借方：流動資産-未収賦課金等-未収経常賦課金 貸方：土地改良事業収入-経常賦課金 ※現金取引以外の取引は、振替命令書による。勘定科目は、財務諸表の科目一覧による。					月日	摘要	入金	出金	残高	
						款： 項：				
収入整理簿					仕訳帳					
款：	項：	目：	月日	摘要	収入額	累計額	月日	摘要	借方	貸方
			8/10	未収経常賦課金 経常賦課金 (経常賦課金の賦課)			8/10	未収経常賦課金	20,000,000	20,000,000
総勘定元帳 (未収経常賦課金)					総勘定元帳 (経常賦課金)					
月日	摘要	借方	貸方	残高	月日	摘要	借方	貸方	残高	
8/10	経常賦課金	20,000,000		略	8/10	未収経常賦課金		20,000,000	略	

## 10. 本年度経常賦課金の納付

取引概要： ×1年9月1日、土地改良区組合員から本年度経常賦課金1,500万円が納付された。

必要書類： 1. 収入命令書 2. 現金預金出納帳 3. 収入整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳 5. 賦課金台帳、賦課金徴収原簿

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、本年度の賦課金が納付された。結果、現金（資産）が増えた。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：資産としての（現金及び預金）が増加したので借方へ、資産としての（未収経常賦課金）が減少したので貸方へ。

収入命令書					現金預金出納帳					
起家日 ×1年9月1日 (略) 同い 一金15,000,000円也 (但し、経常賦課金の納付)					月日	摘要	入金	出金	残高	
					9/1	款：土地改良事業収入 項：経常賦課金収入 目：	15,000,000		略	
収入整理簿					仕訳帳					
款：	項：	目：	月日	摘要	収入額	累計額	月日	摘要	借方	貸方
			9/1	経常賦課金の納付	15,000,000	略	9/1	現金及び預金 未収経常賦課金 (経常賦課金の納付)	15,000,000	15,000,000
総勘定元帳 (現金及び預金)					総勘定元帳 (未収経常賦課金)					
月日	摘要	借方	貸方	残高	月日	摘要	借方	貸方	残高	
9/1	未収経常賦課金		15,000,000	略	9/1	現金及び預金		15,000,000	略	

## 11. 県営土地改良事業分担金の納付

- ◆ 取引概要：県営土地改良事業分担金の納付案件であり、支出命令書、支出整理簿、現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳への記帳をいいます。
- (1) 支出命令書：「様式7-2」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「県営事業分担金納付」とした取引の要約を記入します。
- (2) 現金預金出納帳：「様式2」を用い、所要事項を記入します。出金欄に1,000万円を記入します。摘要欄の款・項・目等は予算書より記入します。
- (3) 支出整理簿：「様式4」を用い、所要事項を記入します。款・項・目等を勘定科目に掲げた支出整理簿の当該頁に記入します。摘要欄に「県営事業分担金納付」とし支出額欄に1,000万円を記入します。
- (4) 仕訳帳：「様式5」を用い、所要事項を記入します。県営事業分担金1,000万円について、借方に支出の勘定科目である「都道府県営事業負担金」を用い記入します。一方、1,000万円は現金の出金であり、貸方に「現金及び預金」を用い記入します。
- 5 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を記入します。「都道府県営事業負担金」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「現金及び預金」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

## 12. 土地改良施設管理者保険料の支払い

- ◆ 取引概要：土地改良施設管理者保険の保険料支払い案件であり、支出命令書、支出整理簿、現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴うものとなります。
- (1) 支出命令書：「様式7-2」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「施設管理者保険の保険料2年分一括支払い」とした取引の要約を記入します。
- (2) 現金預金出納帳：「様式2」を用い、所要事項を記入します。出金欄に600,000円を記入します。摘要欄の款・項・目等は予算書より記入します。
- (3) 支出整理簿：「様式4」を用い、所要事項を記入します。款・項・目等を勘定科目に掲げた支出整理簿の当該頁に記入します。摘要欄に「施設管理者保険の保険料2年分一括払い」とし、支出欄に60万円を記入します。
- (4) 仕訳帳：「様式5」を用い、所要事項を記入します。施設管理者保険の保険料60万円について、借方に、支出の勘定科目である「運営事務費」を用い記入します。一方、60万円は現金の出金であり、貸方に「現金及び預金」を用い記入します。なお、60万円は2年分の保険料前払いであり、適切な費用の繰延べについて期末において決算整理仕訳を行います。
- (5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を記入します。「運営事務費」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「現金及び預金」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

## 11. 県営土地改良事業分担金の納付

取引概要： ×1年12月1日、県営土地改良事業分担金として1,000万円を納付した。

必要書類： 1. 支出命令書 2. 現金預金出納帳 3. 支出整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、県営土地改良事業分担金を納付した（支出の発生）。結果、現金（資産）が減った。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：支出としての（都道府県営事業分担金）が発生したので借方へ、資産としての（現金及び預金）が減少したので貸方へ。

支出命令書				現金預金出納帳					
起案日 ×1年12月1日 (略) 同い 一金10,000,000円也 (但し、県営事業分担金納付)				月日	摘要	入金	出金	残高	
				12/1	款：土地改良事業負担金支出 項：都道府県営事業分担金支出 目：		10,000,000	略	
支出整理簿				仕訳帳					
款：土地改良事業負担金支出 項：都道府県営事業分担金支出 目：				月日	摘要	借方	貸方		
月日	摘要	支出額	累計額	12/1	都道府県営事業分担金 現金及び預金 (県営事業分担金納付)	10,000,000	10,000,000		
12/1	県営事業分担金納付	10,000,000	略						
総勘定元帳 (都道府県営事業分担金)					総勘定元帳 (現金及び預金)				
月日	摘要	借方	貸方	残高	月日	摘要	借方	貸方	残高
12/1	現金及び預金	10,000,000		略	12/1	都道府県営事業分担金		10,000,000	略

## 12. 土地改良施設管理者保険料の支払い

取引概要： ×2年2月1日、土地改良施設管理者保険について2年分(×2.2.1~×4.2.1)の保険料60万円を一括で支払った。

必要書類： 1. 支出命令書 2. 現金預金出納帳 3. 支出整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、土地改良施設管理者保険の保険料を支払った（支出の発生）。結果、現金（資産）が減った。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：支出としての（維持管理費-支払保険料）が増加したので借方へ、資産としての（現金及び預金）が減少したので貸方へ。

支出命令書				現金預金出納帳					
起案日 ×2年2月1日 (略) 同い 一金600,000円也 (但し、施設管理者保険の保険料2年分一括支払い)				月日	摘要	入金	出金	残高	
				2/1	款：土地改良事業費支出 項：維持管理費支出 目：支払保険料		600,000	略	
支出整理簿				仕訳帳					
款：土地改良事業費支出 項：維持管理費支出 目：支払保険料				月日	摘要	借方	貸方		
月日	摘要	支出額	累計額	2/1	支払保険料 現金及び預金 (維持管理費：施設管理者保険料2年分一括支払い)	600,000	600,000		
2/1	施設管理者保険料2年分一括支払い	600,000	略						
総勘定元帳 (支払保険料)					総勘定元帳 (現金及び預金)				
月日	摘要	借方	貸方	残高	月日	摘要	借方	貸方	残高
2/1	現金及び預金	600,000		略	2/1	支払保険料(運営事務費)		600,000	略



## **13. 土地改良施設管理用車両の新規購入**

- ◆ 取引概要：土地改良施設管理用車両の新規購入に係る支払案件であり、支出命令書、支出整理簿、現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴うものとなります。
- (1) 支出命令書：「様式7-2」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「土地改良施設管理用車両の新規購入」とした取引の要約を記入します。
- (2) 現金預金出納帳：「様式2」を用い、所要事項を記入します。出金欄に120万円を記入します。摘要欄の款・項・目等は予算書より記入します。
- (3) 支出整理簿：「様式4」を用い、所要事項を記入します。款・項・目等を勘定科目に掲げた支出整理簿の当該頁に記入します。摘要欄に「施設管理用車両の新規購入」とし、支出欄に120万円を記入します。
- (4) 仕訳帳：「様式5」を用い、所要事項を記入します。施設管理用車両の新規購入120万円について、借方に、資産の勘定科目である「車両運搬具」を用い記入します。一方、120万円は現金の出金であり、貸方側に「現金及び預金」を用い記入します。
- (5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を記入します。「車両運搬具」頁において、仕訳帳の借方側に記しました金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「現金及び預金」頁において、仕訳帳の貸方側に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記する。

## **14. 4月1日に借り入れた運営資金元本の償還**

- ◆ 取引概要：×1年4月1日借入金元本の返済金の支払案件であり、支出命令書、現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴うものとなります。なお、補助簿である区債及び借入金台帳の整理を要するものとなります。
- 1 支出命令書：「様式7-2」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「×1年4月1日借入金元本の返済」とした取引の要約を記入します。
- 2 現金預金出納帳：「様式2」を用い、所要事項を記入します。出金欄に600万円を記入します。摘要欄の款・項・目等は予算書より記入します。
- 3 支出整理簿：記入すべき内容はありません。
- 4 仕訳帳：「様式5」を用い、所要事項を記入します。借入金元本の返済として600万円について、借方に、負債の勘定科目である「短期借入金」を用い記入します。一方、600万円は現金の出金であり、貸方に「現金及び預金」を用い記入します。
- 5 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を記入します。「短期借入金」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「現金及び預金」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

## 13. 土地改良施設管理用車両の新規購入

取引概要： ×2年2月20日、土地改良施設管理用車両1台を120万円で新規購入した。

必要書類： 1. 支出命令書 2. 現金預金出納帳 3. 支出整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、車両（資産）の購入。結果、現金（資産）が減った。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：資産としての（車両運搬具）が増加したので借方へ、資産としての（現金及び預金）が減少したので貸方へ。

支出命令書					現金預金出納帳									
起案日 ×2年2月20日 (略) 伺い 一金1,200,000円也 (但し、土地改良施設管理用車両の新規購入)					月日	摘要	入金	出金	残高					
					2/20	款：固定資産取得支出 項：車両運搬具取得支出 目：		1,200,000	略					
支出整理簿				仕訳帳										
款：固定資産取得支出 項：車両運搬具取得支出 目：				月日	摘要	借方	貸方							
2/20	施設管理用車両の新規購入	1,200,000	略	2/20	車両運搬具  現金及び預金 (施設管理用車両の新規購入)	1,200,000	1,200,000							
総勘定元帳 (車両運搬具)					総勘定元帳 (現金及び預金)									
2/20	現金及び預金	1,200,000	略	2/20	車両運搬具		1,200,000	略						

## 14. 4月1日に借り入れた運営資金元本の償還

<24>

取引概要： ×2年3月31日、短期借入金の元本600万円の償還。

必要書類： 1. 支出命令書 2. 現金預金出納帳 ~~3. 支出整理簿~~ 4. 仕訳帳、総勘定元帳 5. 区債及び借入金台帳

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、短期借入金（負債）を償還した。結果、現金（資産）が減った。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：負債としての（短期借入金）が無くなったので借方へ、資産としての（現金及び預金）が減少したので貸方へ。

支出命令書					現金預金出納帳									
起案日 ×2年3月31日 (略) 伺い 一金6,000,000円也 (但し、4月1日借入金元本の返済)					月日	摘要	入金	出金	残高					
					3/31	短期借入金元本返済		6,000,000	略					
款： 項： 目：					月日	摘要	借方	貸方						
3/31	現金及び預金	6,000,000	略	3/31	短期借入金  現金及び預金 (4月1日借入金元本の返済)	6,000,000	6,000,000							
総勘定元帳 (短期借入金)					総勘定元帳 (現金及び預金)									
3/31	現金及び預金	6,000,000	略	3/31	短期借入金		6,000,000	略						

※収支計算書に計上されていないため、摘要欄には支出金の性格を端的に記すものとする。

## 15. 4月1日に借り入れた運営資金の利息の支払い

◆ 取引概要：昨年4月1日借入金に係る利子の支払案件であり、支出命令書、支出整理簿、現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴うものとなります。なお、補助簿である区債及び借入金台帳の整理を要します。

- (1) 支出命令書：「様式7-2」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「借入金に係る利息の支払い」とした取引の要約を記入します。
- (2) 現金預金出納帳：「様式2」を用い、所要事項を記入します。  
出金欄に12万円（600万円×2%）を記入します。摘要欄の款・項・目等は予算書より記入します。
- (3) 支出整理簿：「様式4」を用い、所要事項を記入します。款、項、目、を勘定科目に掲げた支出整理簿の当該頁に記入します。摘要欄に「借入金に係る利息の支払い」とし、支出欄に12万円を記入します。
- (4) 仕訳帳：様式5」を用い、所要事項を記入します。借入金に係る利子の支払い12万円について、借方に、支出の勘定科目である「運営事務費支出」を用い記入します。  
一方、12万円は現金の出金であり、貸方「現金及び預金」を用い記入します。
- (5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を記入します。「運営事務費支出」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「現金及び預金」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

---

## VIII 決算整理の手続き

---

### (1) 決算整理の手続き

土地改良区における簿記会計の目的は、「期間収支」を正確に計算し、「事業年度末における財政状態を客観的に把握する」という点にあります。決算手続は、決算日以降から始まります。試算表を通じて元帳の勘定残高が検証されると最後にそれらの残高に基づいて財務諸表の作成作業が開始されます。しかし財務諸表の作成に際しては、まず、元帳の各勘定科目の残高金額が決算時点での経済的事実を正しく反映しているか否かを点検しなければなりません。

そしてもし必要があれば元帳の勘定残高を経済的事実と一致させるための調整を行うこととなります。そのような調整を決算整理といい、調整のために行う仕訳を決算整理仕訳といいます。

## 15. 4月1日に借り入れた運営資金の利息の支払い

取引概要： ×2年3月31日、短期借入金の利子12万円の支払い。

必要書類： 1. 支出命令書 2. 現金預金出納帳 3. 支出整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳 5. 区債及び借入金台帳

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける：原因は、運営資金のための短期借入金の利子を支払った。結果、現金（資産）が減った。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：支出としての（借入金利息）が増加したので借方へ、資産としての（現金及び預金）が減少したので貸方へ。

支出命令書				現金預金出納帳					
起案日 ×2年3月31日 (略) 同じ 一金120,000円也 (但し、借入金に係る利息の支払い)				月日	摘要	入金	出金	残高	
				3/31	款: 支払利息 項: 借入金利息 目: その他の借入金		120,000	略	
支出整理簿				仕訳帳					
款: 支払利息 項: 借入金利息 目: その他借入金				月日	摘要	借方	貸方		
月日	摘要	支出額	累計額	3/31	借入金利息(経常外) 現金及び預金 (借入金に係る利息の支払い)	120,000	120,000		
3/31	借入金に係る利息の支払い	120,000	略						
総勘定元帳 (借入金利息 経常外)				総勘定元帳 (現金及び預金)					
月日	摘要	借方	貸方	残高	月日	摘要	借方	貸方	残高
3/31	現金及び預金		120,000	略	3/31	借入金利息(経常外)		120,000	略

## 決算整理の手続

- 土地改良区会計における複式簿記の目的は、「期間収支」を正確に計算し、「事業年度末における財政状態を客観的に把握する」のか、という点にあります。  
決算手続は、決算日以降から始まります。  
決算手続で未処理の修正をするものは「期中に発生した取引」が「決算日以降に判明」したもののみです。
- 「期間収支」を正確に計算するのとは、この1年間の運営努力を明らかにして、どれだけの収入及び支出があったのかを明らかにすることです。
- 期中における収入と支出の記帳は、ほとんどが現金などの収支による取引に基づいて行われていますが、すべてが現金による収入・支出の発生にしたがって記帳されているわけではありません。(例: 減価償却費の計上等)そこで、適切な運営成績を表わすために、期末において、「期中の記帳金額を収入・支出の発生金額に修正する」必要が生じます。
- さらに、財政状態をいかに客観的に把握するのとは、「期末における資産及び負債の実際有高を確認し、帳簿価額との間に食い違いの有無を検証」することです。
- 期末決算整理事項には、「減価償却費の計上、未収金及び未払金計上の他、棚卸資産・有価証券の評価替え、収入・支出の見越・繰延※」などがあります。

※支出及び収入の見越し・・・当期に属する分の支出や収入は、現金の支払いや受取が当期中に行われていなくても、当期の収入支出計算にプラスします。  
支出及び収入の繰延ベ・・・次期以降に属する分の支出や収入について、現金の支払いや受取が当期中に行われていても、当期の収入支出計算からマイナスします。

## (2) 決算整理事項

取引概要番号16番～20番の取引は、期末日の3月31日付けで処理される決算整理の事例を紹介します。

## 16. 所有土地改良施設（譲与施設）の減価償却

◆ 取引概要：所有土地改良施設の今期分減価償却案件であり、振替命令書を用います。支出整理簿、現金預金出納帳については記入すべき内容はありますが、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴います。

また、当該施設は、譲与により取得した施設であるから指定正味財産であることを忘れてはなりません。

(1) 振替命令書：様式7-3を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「所有土地改良施設の今期分減価償却」とした取引の要約を記入します。勘定科目記入欄の款・項・目等は仕訳で使用する勘定科目を使用します。

(2) 現金預金出納帳：記入すべき内容はありません。

(3) 支出整理簿：記入すべき内容はありません。

(4) 仕訳帳：「様式12」を用い、所要事項を記入します。所有土地改良施設の今期分減価償却として1,250万円を借方に記入します。支出の勘定科目として「所有土地改良施設減価償却費」を用い記入します。一方、1,250万円は資産の減少であり、「所有土地改良施設」を用い貸方に記入します。更に、当施設は譲与施設であり90%が指定正味財産と分類されることから、一般正味財産への振替額として指定正味財産の減価償却費相当額と同額を借り方に計上することにより指定正味財産を減額しています。同時に所有土地改良施設受贈益を貸方に計上したことにより減価償却で減額となったところの一般正味財産への振り替えがなされたこととなります。

(5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を記入します。「所有土地改良施設減価償却費」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「所有土地改良施設」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「一般正味財産への振替額」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「所有土地改良施設受贈益」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

## 決算整理事項

取引概要 番号	取引概要	取引月日	命令簿	仕訳と勘定科目	
				借方	貸方
16	所有土地改良施設（譲与施設）の減価償却	3月31日	振替命令書	所有土地改良施設減価償却費	所有土地改良施設
17	事務所建物の減価償却	3月31日	振替命令書	事務所費・減価償却費	建物
18	測量機器の減価償却	3月31日	振替命令書	事務所費・減価償却費	器具備品
19	自動車の減価償却	3月31日	振替命令書	事務所費・減価償却費	車両運搬具
20	土地改良施設管理者保険料の繰延措置	3月31日	振替命令書	前払保険料	運営事務費

※ これら全て、現金取引以外の取引なので、振替命令書による処理。

## 16. 所有土地改良施設（譲与施設）の減価償却

取引概要： ×2年3月31日、決算整理として所有土地改良施設（土地改良区負担割合0%）の減価償却を行った。

必要書類： 1.振替命令書 2.現金預金出納帳 3.収入、支出整理簿 4.仕訳帳、総勘定元帳

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける  
：原因は、所有土地改良施設の減価償却を行ったことにより減価償却費（支出）が発生。結果、所有土地改良施設（資産）の価値が減少した。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：支出としての（所有土地改良施設減価償却費）が増加したので借方へ、資産としての（所有土地改良施設）の価値が減少したので貸方へ。併せて、指定正味財産を指定正味財産の減価償却額相当額減額し、同額を一般正味財産に振り替える。

<p style="text-align: center;">振替命令書-1</p> <p>起案日 ×2年3月31日 借方：・減価償却費-所有土地改良施設減価償却費、 貸方：・特定資産-所有土地改良施設、 一金12,500,000円也（但し、所有土地改良施設の今期減価償却）</p>	<p style="text-align: center;">現金預金出納帳</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>摘要</th> <th>入金</th> <th>出金</th> <th>残高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	月日	摘要	入金	出金	残高															
月日	摘要	入金	出金	残高																	
<p style="text-align: center;">振替命令書-2</p> <p>起案日 ×2年3月31日 借方：・一般正味財産への振替額 貸方：・所有土地改良施設受贈益 一金12,500,000円也（但し、指定正味財産の部から一般正味財産の部への振り替え）</p>	<p style="text-align: center;">仕訳帳</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>摘要</th> <th>借方</th> <th>貸方</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3/31</td> <td>所有土地改良施設減価償却費 所有土地改良施設 (所有土地改良施設の今期減価償却)</td> <td style="text-align: right;">12,500,000</td> <td style="text-align: right;">12,500,000</td> </tr> <tr> <td></td> <td>一般正味財産への振替額 所有土地改良施設受贈益 (指定正味財産の部から一般正味財産の部への振替)</td> <td style="text-align: right;">12,500,000</td> <td style="text-align: right;">12,500,000</td> </tr> </tbody> </table>	月日	摘要	借方	貸方	3/31	所有土地改良施設減価償却費 所有土地改良施設 (所有土地改良施設の今期減価償却)	12,500,000	12,500,000		一般正味財産への振替額 所有土地改良施設受贈益 (指定正味財産の部から一般正味財産の部への振替)	12,500,000	12,500,000								
月日	摘要	借方	貸方																		
3/31	所有土地改良施設減価償却費 所有土地改良施設 (所有土地改良施設の今期減価償却)	12,500,000	12,500,000																		
	一般正味財産への振替額 所有土地改良施設受贈益 (指定正味財産の部から一般正味財産の部への振替)	12,500,000	12,500,000																		
<p style="text-align: center;">支出整理簿</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>摘要</th> <th>支出額</th> <th>累計額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table>	月日	摘要	支出額	累計額																	
月日	摘要	支出額	累計額																		
<p style="text-align: center;">総勘定元帳 (所有土地改良施設減価償却費)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>摘要</th> <th>借方</th> <th>貸方</th> <th>残高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3/31</td> <td>所有土地改良施設</td> <td style="text-align: right;">12,500,000</td> <td></td> <td style="text-align: right;">略</td> </tr> </tbody> </table>	月日	摘要	借方	貸方	残高	3/31	所有土地改良施設	12,500,000		略	<p style="text-align: center;">総勘定元帳 (所有土地改良施設)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>摘要</th> <th>借方</th> <th>貸方</th> <th>残高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3/31</td> <td>所有土地改良施設減価償却費</td> <td></td> <td style="text-align: right;">12,500,000</td> <td style="text-align: right;">略</td> </tr> </tbody> </table>	月日	摘要	借方	貸方	残高	3/31	所有土地改良施設減価償却費		12,500,000	略
月日	摘要	借方	貸方	残高																	
3/31	所有土地改良施設	12,500,000		略																	
月日	摘要	借方	貸方	残高																	
3/31	所有土地改良施設減価償却費		12,500,000	略																	
<p style="text-align: center;">(一般正味財産への振替額)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>摘要</th> <th>借方</th> <th>貸方</th> <th>残高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3/31</td> <td>所有土地改良施設受贈益</td> <td style="text-align: right;">12,500,000</td> <td></td> <td style="text-align: right;">略</td> </tr> </tbody> </table>	月日	摘要	借方	貸方	残高	3/31	所有土地改良施設受贈益	12,500,000		略	<p style="text-align: center;">(所有土地改良施設受贈益)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>摘要</th> <th>借方</th> <th>貸方</th> <th>残高</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3/31</td> <td>一般正味財産への振替額</td> <td></td> <td style="text-align: right;">12,500,000</td> <td style="text-align: right;">略</td> </tr> </tbody> </table>	月日	摘要	借方	貸方	残高	3/31	一般正味財産への振替額		12,500,000	略
月日	摘要	借方	貸方	残高																	
3/31	所有土地改良施設受贈益	12,500,000		略																	
月日	摘要	借方	貸方	残高																	
3/31	一般正味財産への振替額		12,500,000	略																	

### <指定正味財産について>

土地改良区が国又は都道府県等から補助金等を受け入れた場合、原則として、その受入額を受取補助金等として指定正味財産増減の部に記載し、補助金等の目的たる資産の費消等が行われるのに応じて当該金額を指定正味財産から一般正味財産に振り替えるものとする。なお、当該事業年度末までに目的たる支出を行うことが予定されている補助金等を受け入れた場合には、その受入額を受取補助金等として一般正味財産増減の部に記載することができます。指定正味財産に区分される譲与又は寄付によって受け入れた資産について、減価償却を行った場合には、当該減価償却費の額について指定正味財産の部から一般正味財産の部に振り替え、当期の振替額を正味財産増減の部及び一般正味財産増減の部に記載しなければなりません。

## 17. 事務所建物の減価償却

- ◆ 取引概要：建物及び附属設備の今期分減価償却案件であり、振替命令書を用います。支出整理簿、現金預金出納帳については記載すべき内容はありますが、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴います。
- (1) 振替命令書：「様式14-3」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「建物及び附属設備の今期分減価償却」として振替処理の性格を端的に記入します。当該減価償却費は一般管理費の勘定であり取引概要16の減価償却費と違うので気をつけてください。勘定科目記入欄の款・項・目等は仕訳で使用する勘定科目を使用します。
- (2) 現金預金出納帳：記入すべき内容はありません。
- (3) 支出整理簿：記入すべき内容はありません。
- (4) 仕訳帳：「様式5」を用い、所要事項を記入します。建物及び附属設備の今期分減価償却として「事務所費」100万円を借方に記入します。一方、100万円は資産の減少であり、「建物」を用い、貸方に記入します。
- (5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を記入します。「事務所費」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。建物」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

## 18. 測量機器の減価償却

- ◆ 取引概要：器具備品の今期分減価償却案件であり、振替命令書式を用います。支出整理簿、現金預金出納帳については記載する要素はありませんが、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴うものとなります。
- (1) 振替命令書：「様式7-3」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「器具備品の今期分減価償却」とした取引の要約を記入します。当該減価償却費は一般管理費の勘定であり取引概要16の減価償却費と違うので気をつけてください。勘定科目記入欄の款・項・目等は仕訳で使用する勘定科目を使用します。
- (2) 現金預金出納帳：記入すべき内容はありません。
- (3) 支出整理簿：記入すべき内容はありません。
- (4) 仕訳帳：「様式5」を用い、所要事項を記入します。器具備品の今期分減価償却費として20万円を借方に記入します。支出の勘定科目として「事務所費」を用い記入します。一方、20万円は資産の減少であり、「器具備品」を用い、貸方に記入します。
- (5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を記入します。「事務所費」頁において、仕訳帳の借方側に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「器具備品」頁において、仕訳帳の貸方側に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

## 17. 事務所建物の減価償却

取引概要：×2年3月31日、決算整理として事務所建物の減価償却を行った。

必要書類： 1. 振替命令書 2. 現金預金出納帳 3. 収入、支出整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける  
：原因は、事務所建物の減価償却を行ったことにより減価償却費（支出）が発生。結果、事務所建物（資産）の価値が減少した。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：支出としての（事務所費-減価償却費）が増加したので借方へ、資産としての（建物）の価値が減少したので貸方へ。

#### 振替命令書

起案日 ×2年3月31日  
借方：一般管理費-事務所費-減価償却費  
貸方：その他固定資産-建物  
一金1,000,000円也（但し、建物の今期減価償却）

※現金取引以外の取引は、振替命令書による。勘定科目は、財務諸表の科目一覧による。

#### 現金預金出納帳

月日	摘要	入金	出金	残高

#### 支出整理簿

款：項：目：			
月日	摘要	支出額	累計額

#### 仕訳帳

月日	摘要	借方	貸方
3/31	減価償却費 建物 (建物の今期減価償却)	1,000,000	1,000,000

#### 総勘定元帳 (減価償却費)

月日	摘要	借方	貸方	残高
3/31	建物	1,000,000		略

#### 総勘定元帳 (建物)

月日	摘要	借方	貸方	残高
3/31	減価償却費		1,000,000	略

## 18. 測量機器の減価償却

取引概要：×2年3月31日、決算整理として測量機器の減価償却を行った。

必要書類： 1. 振替命令書 2. 現金預金出納帳 3. 収入、支出整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける  
：原因は、測量機器の減価償却を行ったことにより減価償却費（支出）が発生。結果、測量機器（資産）の価値が減少した。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：支出としての（事務所費-減価償却費）が増加したので借方へ、資産としての（器具備品）の価値が減少したので貸方へ。

#### 振替命令

起案日 ×2年3月31日  
借方：一般管理費-事務所費-減価償却費  
貸方：その他固定資産-器具備品  
一金200,000円也（但し、器具備品の今期減価償却）

※現金取引以外の取引は、振替命令書による。勘定科目は、財務諸表の科目一覧による。

#### 現金預金出納帳

月日	摘要	入金	出金	残高

#### 支出整理簿

款：項：目：			
月日	摘要	支出額	累計額

#### 仕訳帳

月日	摘要	借方	貸方
3/31	減価償却費 器具備品 (器具備品の今期減価償却)	200,000	200,000

#### 総勘定元帳 (減価償却費)

月日	摘要	借方	貸方	残高
3/31	器具備品	200,000		略

#### 総勘定元帳 (器具備品)

月日	摘要	借方	貸方	残高
3/31	減価償却費		200,000	略



## 19. 自動車の減価償却

◆ 取引概要：既存車と2月購入車両の今期分減価償却案件であり、振替命令書式を用います。支出整理簿、現金預金出納帳については記載する要素はありませんが、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴います。

(1) 振替命令書：「様式14-3」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには既存車（年償却額12万円）と2月購入車両（2ヶ月分の償却額2万円）の今期分減価償却とした取引の要約を記入します。勘定科目記入欄の款・項・目等は仕訳で使用する勘定科目を使用する。

※ $120\text{万円} \times 1/10 \times 2/12 = 2\text{万円}$

（今回のケースでは、自動車の耐用年数を10年としています。）

(2) 現金預金出納帳：記入すべき内容はありません。

(3) 支出整理簿：記入すべき内容はありません。

(4) 仕訳帳：「様式5」を用い所要事項を記入します。支出の勘定科目として「事務所費」を用い車両の今期分減価償却として借方に14万円を記入します。一方、14万円は資産の減少であり、貸方に「車両運搬具」を用い記入します。

(5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を記入します。「事務所費」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「車両運搬具」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

## 20. 土地改良施設管理者保険の繰延措置

◆ 取引概要：2月1日支払い保険料につき費用の繰延であり、振替命令書を用います。支出整理簿、現金預金出納帳については記載すべき内容はありませんが、仕訳帳、総勘定元帳への記帳を伴うものとなります。2月1日に向こう2年間分の保険料を支払っていますが、当期分の支出額は2ヶ月分5万円です。（ $60\text{万円} \div 24\text{ヶ月} \times 2\text{ヶ月} = 5\text{万円}$ ）従って、55万円（ $60\text{万円} - 5\text{万円} = 55\text{万円}$ ）は次期に繰り延べます。

(1) 振替命令：「様式7-3」を用い、所要事項を記入して決裁を受けます。伺いのただし書きには「一括支払い保険料につき費用の繰延」とした取引の要約を記入します。

(2) 現金預金出納帳：記入すべき内容はありません。

(3) 支出整理簿：記入すべき内容はありません。

(4) 仕訳帳：「様式5」を用い、所要事項を記入します。一括支払い保険料につき翌期への繰延額として55万円を借方に記し、資産の勘定科目として経過勘定の「前払保険料」を用います。一方、55万円は、翌期以降の費用であり、借方に「支払保険料」をします。翌期首は、前払い保険料という経過勘定を使用していることから必ず「支払保険料55万円／前払保険料55万円」と仕訳します。この仕訳により、経過勘定の前払い保険料が相殺され、×2年度の支出勘定として55万円が計上されます。このことを再振替え仕訳といいます。

(5) 総勘定元帳：「様式6」を用い、所要事項を記入します。「前払保険料」頁において、仕訳帳の借方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。「支払保険料」頁において、仕訳帳の貸方に記された金額と対応勘定科目を摘要欄に転記します。

## 19. 自動車の減価償却

取引概要：×2年3月31日、決算整理として自動車の減価償却を行った。

必要書類： 1. 振替命令書 2. 現金預金出納帳 3. 収入、支出整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける  
：原因は、自動車の減価償却を行ったことにより減価償却費（支出）が発生。結果、自動車（資産）の価値が減少した。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：支出としての（事務所費-減価償却費）が増加したので借方へ、資産としての（車両運搬具）の価値が減少したので貸方へ。

#### 振替命令書

起案日 ×2年3月31日  
借方：一般管理費-事務所費-減価償却費  
貸方：その他固定資産-車両運搬具  
一金140,000円也（但し、車両運搬具の今期減価償却）

※現金取引以外の取引は、振替命令書による。勘定科目は、財務諸表の科目一覧による。

#### 現金預金出納帳

月日	摘要	入金	出金	残高

#### 支出整理簿

款：項：目：			
月日	摘要	支出額	累計額

#### 仕訳帳

月日	摘要	借方	貸方
3/31	減価償却費	140,000	
	車両運搬具 (車両運搬具の今期減価償却)		140,000

#### 総勘定元帳 (減価償却費)

月日	摘要	借方	貸方	残高
3/31	車両運搬具	140,000		略

#### 総勘定元帳 (車両運搬具)

月日	摘要	借方	貸方	残高
3/31	減価償却費		140,000	略

## 20. 土地改良施設管理者保険の繰延措置

取引概要：×2年3月31日、決算整理として期末決算整理事項として、×2年2月1日支払い保険料につき費用の繰延措置を行った

必要書類： 1. 振替命令書 2. 現金預金出納帳 3. 収入、支出整理簿 4. 仕訳帳、総勘定元帳

### 仕訳の考え方

- 原因と結果に分ける  
：原因は、2月に支払った2年分の保険料を更正したこと。結果、更正額が前払い費用として翌期に繰延べされた。
- 勘定のどちら側に記入するかを考える。  
：支払保険料を更正（支出の減額）するので貸方へ、次に経過勘定（前払保険料：資産）を計上するので借方へ。

#### 振替命令書

起案日 ×2年3月31日  
借方：前払保険料(経過勘定)  
貸方：一般管理費-運営事務費-支払保険料  
一金550,000円也（但し一括支払い保険料の繰延）

※現金取引以外の取引は、振替命令書による。勘定科目は、財務諸表の科目一覧による。

#### 現金預金出納帳

月日	摘要	入金	出金	残高

#### 支出整理簿

款：項：目：			
月日	摘要	支出額	累計額

#### 仕訳帳

月日	摘要	借方	貸方
3/31	前払保険料	550,000	
	支払保険料(運営事務費) (一括支払い保険料の繰延)		550,000

※翌期首で必ず、再振替仕訳(貸借逆の仕訳)を行うこと。これにより経過勘定の資産が消滅し支出勘定が繰り延べされる。

#### 総勘定元帳 (前払保険料)

月日	摘要	借方	貸方	残高
3/31	運営事務費(支払保険料)	550,000		略

#### 総勘定元帳 (支払保険料・運営事務費)

月日	摘要	借方	貸方	残高
3/31	前払保険料		550,000	略

## Ⅹ 現金預金出納帳、仕訳帳、総勘定元帳、合計残高試算表

### 1. 現金預金出納帳

#### 1. 現金預金出納帳

単位：円

月日	摘要	入金	出金	残高
4/1	前期繰越			1,000,000
4/1	短期借入金	6,000,000		7,000,000
5/1	款：一般管理費支出 項：事務所費支出 目：水道光熱費		4,000	6,996,000
5/10	款：一般管理費支出 項：運営事務費支出 目：雑費		2,000	6,994,000
5/20	款：一般管理費支出 項：運営事務費支出 目：消耗什器備品費		1,000	6,993,000
6/1	款：土地改良事業費支出 項：適正化事業拠出金支出 目：適正化事業拠出金		1,500,000	5,493,000
7/1	款：一般管理費支出 項：運営事務費支出 目：賞与支払		500,000	4,993,000

単位：円

月日	摘要	入金	出金	残高
7/1	所得税源泉徴収預り金	50,000		5,043,000
8/1	所得税源泉徴収預り金の納付		50,000	4,993,000
9/1	款：土地改良事業収入 項：経常賦課金収入 目：	15,000,000		19,993,000
12/1	款：土地改良事業負担金支出 項：都道府県営事業分担金支出 目：		10,000,000	9,993,000
2/1	款：土地改良事業費支出 項：維持管理費支出 目：支払保険料		600,000	9,393,000
2/20	款：固定資産取得支出 項：車両運搬具取得支出 目：		1,200,000	8,193,000
3/31	短期借入金元本返済		6,000,000	2,193,000
3/31	款：支払利息 項：借入金利息 目：その他の借入金		120,000	2,073,000

## 2. 仕訳帳

### 2-1. 仕訳帳

単位:円

月日	摘要	借方	貸方
4/1	現金及び預金 短期借入金 運営資金の借入	6,000,000	6,000,000
5/1	水道光熱費 現金及び預金 事務所電気料4月分	4,000	4,000
5/10	雑費 現金及び預金 来客用茶代	2,000	2,000
5/20	消耗什器備品費 現金及び預金 消耗品代	1,000	1,000
6/1	適正化事業拠出金 現金及び預金 適正化事業拠出金第1期分	1,500,000	1,500,000
7/1	給料手当 現金及び預金 職員賞与	500,000	500,000
7/1	現金及び預金 預り金 所得税源泉徴収預り金	50,000	50,000
8/1	預り金 現金及び預金 所得税源泉徴収預り金の納付	50,000	50,000

月日	摘要	借方	貸方
8/10	未収経常賦課金 経常賦課金 経常賦課金の賦課	20,000,000	20,000,000
9/1	現金及び預金 未収経常賦課金 経常賦課金の納付	15,000,000	15,000,000
12/1	都道府県営事業分担金 現金及び預金 県営事業分担金納付	10,000,000	10,000,000
2/1	支払保険料 現金及び預金 維持管理費:施設管理者保険料2年分一括支払い	600,000	600,000
2/20	車両運搬具 現金及び預金 施設管理用車両の新規購入	1,200,000	1,200,000
3/31	短期借入金 現金及び預金 4月1日借入金元本の返済	6,000,000	6,000,000
3/31	借入金利息 現金及び預金 借入金に係る利息の支払い(経常外)	120,000	120,000

## 2-2. 仕訳帳（決算整理事務）

財務諸表の作成に際しては、まず、元帳の各勘定科目の残高金額が、決算時点での経済的事実を正しく反映しているか否かを点検しなければなりません。そしてもし必要があれば、元帳の勘定残高を、経済的事実と一致させるための調整を行います。そのような調整を決算整理といい、調整のために行う仕訳を決算整理仕訳といいます。決算整理が必要となる主要な原因は、一会計期間中の取引に関する記録が、主として現金の収支や財貨の受け渡しなどのように、物理的に知覚できる現象に着目して行われる点にあります。物理的に知覚が困難な事象は、たとえそれが発生していても、会計期間中には記録されないことが多いことから、決算に当たり、そのような事象を会計記録に反映させるための調整が必要となります。そのような決算整理を必要とする事象として、減価償却や収入、支出の見越し・繰延べがあります。

単位:円

月日	摘要	借方	貸方
3/31	所有土地改良施設減価償却費 所有土地改良施設 所有土地改良施設の今期減価償却	12,500,000	12,500,000
	一般正味財産への振替額 所有土地改良施設受贈益 指定正味財産の部から一般正味財産の部への振替	12,500,000	12,500,000
3/31	減価償却費 建物 建物の今期減価償却	1,000,000	1,000,000
3/31	減価償却費 器具備品 器具備品の今期減価償却	200,000	200,000
3/31	減価償却費 車両運搬具 車両運搬具の今期減価償却	140,000	140,000
3/31	前払保険料 支払保険料 一括支払い保険料の繰延	550,000	550,000

### 3. 総勘定元帳への転記

取引発生順に記録された仕訳帳のデータ「取引の日々記録」を、影響を受けた項目別に分類し直します。これが総勘定元帳への転記です。

このような分類集計のために、資産や負債、収入や支出などの項目別に設定された総勘定元帳が作成されます。

したがって、仕訳帳から総勘定元帳への転記は、取引発生順のデータベースを、取引によって影響を受ける項目別のデータベースに振り分ける作業「取引の分類記録」といえます。

取引の都度行われる転記は、仕訳帳に記入された事項を正確に再分類するものでなければなりません。このためには、仕訳の左側（借方）に記載された勘定科目と金額は、総勘定元帳の同じ名前の勘定科目の左側（借方）に同じ金額を記入します。仕訳の右側（貸方）も総勘定元帳の同じ名前の勘定科目の右側（貸方）に同じ金額を記入します。これにより取引発生順のデータベース（仕訳帳）から影響項目別のデータベース「総勘定元帳」への組み替えが完了します。

### 3. 総勘定元帳

(現金及び預金)

単位:円

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
4/1	前期繰越		1,000,000		借	1,000,000
4/1	短期借入金		6,000,000		借	7,000,000
	4月計		7,000,000	0		
5/1	事務所費(事務所電気料4月分)			4,000	借	6,996,000
5/10	運営事務費(来客用茶代)			2,000	借	6,994,000
5/20	運営事務費(消耗品代)			1,000	借	6,993,000
	5月計		0	7,000		
6/1	適正化事業拠出金			1,500,000	借	5,493,000
	6月計		0	1,500,000		
7/1	運営事務費(職員賞与)			500,000	借	4,993,000
7/1	預り金(所得税源泉徴収預り金)		50,000		借	5,043,000
	7月計		50,000	500,000		
8/1	預り金(所得税源泉徴収預り金の納付)			50,000	借	4,993,000
	8月計		0	50,000		
9/1	未収経常賦課金		15,000,000		借	19,993,000
	9月計		15,000,000	0		
12/1	都道府県営事業分担金			10,000,000	借	9,993,000
	12月計		0	10,000,000		
2/1	支払保険料(維持管理費:施設管理者保険の保険料2年分一括支払い)			600,000	借	9,393,000
2/20	車両運搬具			1,200,000	借	8,193,000
	2月計		0	1,800,000		
3/31	短期借入金			6,000,000	借	2,193,000
3/31	借入金利息(借入金に係る利息の支払い、経常外)			120,000	借	2,073,000
	3月計		0	6,120,000		
	累計		22,050,000	19,977,000	借	2,073,000

(未収賦課金等)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
8/10	経常賦課金(経常賦課金の賦課)		20,000,000		借	20,000,000
9/1	現金及び預金			15,000,000	借	5,000,000
	累計		20,000,000	15,000,000	借	5,000,000

(前払保険料)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
3/31	支払保険料(保険料の繰延)		550,000		借	550,000
	累計		550,000	0	借	550,000

(山林、宅地及びその従物)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
4/1	前期繰越		100,000,000		借	100,000,000
	累計		100,000,000	0	借	100,000,000

(所有土地改良施設)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
4/1	前期繰越		375,000,000		借	375,000,000
3/31	所有土地改良施設減価償却費			12,500,000	借	362,500,000
	累計		375,000,000	12,500,000	借	362,500,000

(建物)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
4/1	前期繰越		20,000,000		借	20,000,000
3/31	事務所費(減価償却費)			1,000,000	借	19,000,000
	累計		20,000,000	1,000,000	借	19,000,000

## (車両運搬具)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
4/1	前期繰越		600,000		借	600,000
2/20	現金及び預金(施設管理用車両の新規購入)		1,200,000		借	1,800,000
3/31	事務所費(減価償却費)			140,000	借	1,660,000
	累計		1,800,000	140,000	借	1,660,000

## (器具備品)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
4/1	前期繰越		1,000,000		借	1,000,000
3/31	事務所費(減価償却費)			200,000	借	800,000
	累計		1,000,000	200,000	借	800,000

## (適正化事業拠出金)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
6/1	現金及び預金		1,500,000		借	1,500,000
	累計		1,500,000	0	借	1,500,000

## (預り金)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
7/1	現金及び預金(所得税源泉徴収預り金)			50,000	貸	50,000
8/1	現金及び預金(所得税源泉徴収預り金の納付)		50,000			0
	累計		50,000	50,000		0

## (短期借入金)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
4/1	現金及び預金(運営資金の借入)			6,000,000	貸	6,000,000
3/31	現金及び預金(借入金元本の返済)		6,000,000			0
	累計		6,000,000	6,000,000		0

## (経常賦課金)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
8/10	未収経常賦課金(経常賦課金の賦課)			20,000,000	貸	20,000,000
	累計		0	20,000,000	貸	20,000,000

## (支払保険料・維持管理費)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
2/1	現金及び預金(維持管理費)		600,000		借	600,000
3/31	前払保険料			550,000	借	50,000
	累計		600,000	550,000	借	50,000

## (所有土地改良施設減価償却費)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
3/31	所有土地改良施設		12,500,000		借	12,500,000
	累計		12,500,000	0	借	12,500,000

## (運営事務費)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
5/10	現金及び預金(茶代)		2,000		借	2,000
5/20	現金及び預金(消耗品代)		1,000		借	3,000
7/1	現金及び預金(賞与)		500,000		借	503,000
	累計		503,000	0	借	503,000

## (事務所費)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
5/1	現金及び預金(事務所電気料4月分)		4,000		借	4,000
3/31	建物(減価償却費)		1,000,000		借	1,004,000
3/31	器具備品(減価償却費)		200,000		借	1,204,000
3/31	車両運搬具(減価償却費)		140,000		借	1,344,000
	累計		1,344,000	0	借	1,344,000

## (都道府県営事業分担金)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
12/1	現金及び預金		10,000,000		借	10,000,000
	累計		10,000,000	0	借	10,000,000

## (借入金利息)経常外

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
3/31	現金及び預金		120,000		借	120,000
	累計		120,000	0	借	120,000

## (一般正味財産への振替額)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
4/1	前期繰越			375,000,000	貸	375,000,000
3/31	所有土地改良施設受贈益		12,500,000		貸	362,500,000
	累計		12,500,000	375,000,000	貸	362,500,000

## (所有土地改良施設受贈益)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
3/31	一般正味財産への振替額			12,500,000	貸	12,500,000
	累計		0	12,500,000	貸	12,500,000

## (一般正味財産増減)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
3/31	土地改良事業収入(経常賦課金)			20,000,000	貸	20,000,000
	減価償却費(所有土地改良施設減価償却費)		12,500,000		貸	7,500,000
	一般管理費(運営事務費+事務所費)		1,847,000		貸	5,653,000
	都道府県営事業分担金		10,000,000		借	4,347,000
	所有土地改良施設受贈益			12,500,000	貸	8,153,000
	支払保険料(維持管理費)		50,000		貸	8,103,000
	支払利息(経常外)		120,000		貸	7,983,000

## (指定正味財産増減)

月日	摘要	仕丁	借方	貸方	貸借	残高
3/31	指定正味財産			375,000,000	貸	375,000,000
3/31	一般正味財産への振替額		12,500,000		貸	362,500,000



## 4. 試算表を作成する

一会計期間中の全ての取引について、仕訳帳から元帳（総勘定元帳）への転記が終了すると転記の手続きが正確に行われたことを確かめるために、元帳の全ての勘定の金額を集めて、試算表を作成します。図表2-5は合計残高試算表の例です。仕訳帳から総勘定元帳への転記の正確性は試算表を利用して、次のように確かめることができます。

- ① 試算表それ自体において、最終行に示された借方と貸方の合計金額が等しくなければなりません。

なぜならば、全ての取引がもともと借方と貸方が等しく仕訳されており、総勘定元帳への転記の作業は、仕訳の借方金額を総勘定元帳の該当科目の借方へ転記し、同じく、仕訳の貸方金額は総勘定元帳の該当科目の貸方へ転記したにすぎないからです。

- ② 仕訳帳に記載された仕訳の合計金額と、仕訳に基づき整理された試算表の勘定科目の金額合計が一致しなければなりません。

したがって、もし上記の2点について不一致が生じているならば、それは転記が正しく行われなかったこととなります。この場合には、再度、転記の作業をたどって、一致するまで調査を繰り返さなければなりません。このようにして試算表を利用して記帳手続きの正確性を点検することができる仕組みを、複式簿記の自己検証機能といいます。

仕訳帳借方合計＝仕訳帳貸方合計

総勘定元帳各口座借方総合計＝総勘定元帳各口座貸方総合計

試算表借方合計欄合計＝試算表貸方合計欄合計

したがって、仕訳帳合計＝試算表合計

## 4-1. 決算整理前合計残高試算表

合計残高試算表（決算整理前）  
×2年3月31日

単位：円

借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
2,073,000	22,050,000	現金及び預金	19,977,000	
5,000,000	20,000,000	未収経常賦課金	15,000,000	
		前払保険料		
100,000,000	100,000,000	山林、宅地及びその従物		
375,000,000	375,000,000	所有土地改良施設		
20,000,000	20,000,000	建物		
1,800,000	1,800,000	車両運搬具		
1,000,000	1,000,000	器具備品		
1,500,000	1,500,000	適正化事業拠出金		
		一般正味財産	122,600,000	122,600,000
		指定正味財産	375,000,000	375,000,000
		土地改良事業収入（経常賦課金）	20,000,000	20,000,000
600,000	600,000	所有土地改良施設受贈益		
		土地改良事業費（維持管理費：支払保険料）		
		所有土地改良施設減価償却費		
		一般管理費		
503,000	503,000	運営事務費（経常経費）		
4,000	4,000	事務所費（水道光熱費）		
		事務所費（建物減価償却費）		
		事務所費（車両運搬具減価償却費）		
		事務所費（器具備品減価償却費）		
10,000,000	10,000,000	都道府県営事業分担金		
120,000	120,000	借入金利息（経常外）		
		一般正味財産期首残高		
		一般正味財産期末残高		
		一般正味財産への振替額		
		指定正味財産期首残高		
		指定正味財産期末残高		
517,600,000	552,577,000		552,577,000	517,600,000

## 4-2. 決算整理後合計残高試算表

合計残高試算表（決算整理後）  
×2年3月31日

単位：円

借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
2,073,000	22,050,000	現金及び預金	19,977,000	
5,000,000	20,000,000	未収経常賦課金	15,000,000	
550,000	550,000	前払保険料		
100,000,000	100,000,000	山林、宅地及びその従物		
362,500,000	375,000,000	所有土地改良施設	12,500,000	
19,000,000	20,000,000	建物	1,000,000	
1,660,000	1,800,000	車両運搬具	140,000	
800,000	1,000,000	器具備品	200,000	
1,500,000	1,500,000	適正化事業拠出金		
		一般正味財産	130,583,000	130,583,000
		指定正味財産	362,500,000	362,500,000
		土地改良事業収入（経常賦課金）	20,000,000	20,000,000
50,000	600,000	所有土地改良施設受贈益	12,500,000	12,500,000
12,500,000	12,500,000	土地改良事業費（維持管理費：支払保険料）	550,000	
		所有土地改良施設減価償却費		
		一般管理費		
503,000	503,000	運営事務費（経常経費）		
4,000	4,000	事務所費（水道光熱費）		
1,000,000	1,000,000	事務所費（建物減価償却費）		
140,000	140,000	事務所費（車両運搬具減価償却費）		
200,000	200,000	事務所費（器具備品減価償却費）		
10,000,000	10,000,000	都道府県営事業分担金		
120,000	120,000	借入金利息（経常外）		
		一般正味財産期首残高	122,600,000	122,600,000
130,583,000	130,583,000	一般正味財産期末残高		
12,500,000	12,500,000	一般正味財産への振替額		
		指定正味財産期首残高	375,000,000	375,000,000
362,500,000	362,500,000	指定正味財産期末残高		
1,023,183,000	1,072,550,000		1,072,550,000	1,023,183,000

## **X 精算表、正味財産増減計算書、仕訳帳、総勘定元帳、 貸借対照表、財務諸表に対する注記、財産目録**

### **1. 精算表**

#### (1) 精算表の作成

精算表は、総勘定元帳の各勘定の期末残高を集めた残高試算表と決算整理事項に基づいて作成される表であって、総勘定元帳とは別に一表の上で決算の過程を示すものです。

残高試算表を基とし、一連の決算整理事項の修正を行い、その結果に基づき正味財産増減計算書、貸借対照表に登載されるべき金額が整理されます。

決算は通常総勘定元帳を締め切って行われるものですが、手続き上時間も要するため、精算表を作成し、決算計数を確定します。精算表により決算が正確に行われたことを確認してから元帳の締め切りを行っていきます。

精算表は、実務上、複雑な決算の正確性を期するために、決算の予備的手段として作成されます。また、総勘定元帳から決算整理を経て正味財産増減計算書と貸借対照表が作成される関係が明快に一覧表示されるので、精算表の作成は特に重視されています。

#### (2) 精算表の作成手順

- ① まず、合計残高試算表から各勘定科目別残高を精算表の残高試算表欄に転記します。
- ② 次に、精算表の該当科目の修正記入欄に決算整理仕訳(取引概要16~20)の金額を記入します。その場合に必要があれば新規の勘定科目が追加されます。
- ③ 精算表は、そこに記載される勘定科目ごとに、借方金額と貸方金額に関して、次の等式が成立する構造になっています。

残高試算表欄 の金額	+	修正記入欄 の金額	=	正味財産 増減計算書欄 の金額	+	貸借対照表欄 の金額
---------------	---	--------------	---	-----------------------	---	---------------

したがって、この等式が成立するように注意しながら、収入と支出の勘定科目については、正味財産増減計算書欄に金額を記入し、資産・負債・正味財産の各勘定については、貸借対照表欄に金額を記入します。

# 1. 精算表

単位：円

1. 勘定科目	2. 残高試算表	3. 修正記入	4. 正味財産増減計算書	5. 貸借対照表

1. 勘定科目欄：貸借対照表、正味財産増減計算書、決算整理で出てきた勘定科目です。
2. 残高試算表欄：決算整理前の合計残高試算表の金額を転記したものです。
3. 修正記入欄：期末決算整理仕訳の金額を転記したものです。
4. 正味財産増減計算書欄：支出は借方に収入は貸方に金額を転記したものです。
5. 貸借対照表欄：資産は借方に、負債は貸方に金額を転記したものです。

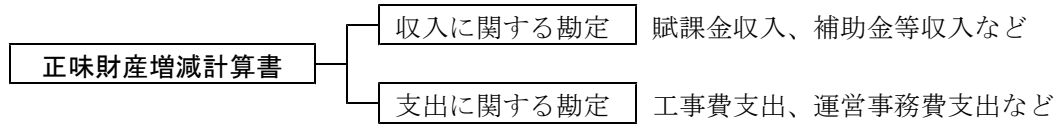
## 精算表

単位：円

勘定科目	試算表		修正記入		正味財産増減計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
(貸借対照表)								
現金及び預金	2,073,000						2,073,000	
未収賦課金等(未収経常賦課金)	5,000,000						5,000,000	
前払保険料	0		550,000				550,000	
山林、宅地及びその従物	100,000,000						100,000,000	
所有土地改良施設	375,000,000			12,500,000			362,500,000	
建物	20,000,000			1,000,000			19,000,000	
車両運搬具	1,800,000			140,000			1,660,000	
器具備品	1,000,000			200,000			800,000	
適正化事業拠出金	1,500,000						1,500,000	
一般正味財産		122,600,000	122,600,000	130,583,000				130,583,000
指定正味財産		375,000,000	375,000,000	362,500,000				362,500,000
(正味財産増減計算書)								
土地改良事業収入(経常賦課金)		20,000,000				20,000,000		
所有土地改良施設受贈益				12,500,000		12,500,000		
土地改良事業費(維持管理費：支払保険料)	600,000			550,000	50,000			
所有土地改良施設減価償却費			12,500,000		12,500,000			
一般管理費								
運営事務費(経常経費)	503,000				503,000			
事務所費(水道光熱費)	4,000				4,000			
事務所費(建物減価償却費)			1,000,000		1,000,000			
事務所費(車両運搬具減価償却費)			140,000		140,000			
事務所費(器具備品減価償却費)			200,000		200,000			
都道府県営事業分担金	10,000,000				10,000,000			
借入金利息(経常外)	120,000				120,000			
一般正味財産期首残高				122,600,000		122,600,000		
一般正味財産期末残高			130,583,000		130,583,000			
一般正味財産への振替額			12,500,000		12,500,000			
指定正味財産期首残高				375,000,000		375,000,000		
指定正味財産期末残高			362,500,000		362,500,000			
	517,600,000	517,600,000	1,017,573,000	1,017,573,000	530,100,000	530,100,000	493,083,000	493,083,000

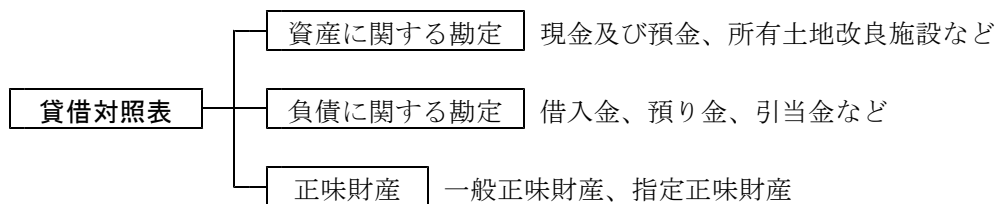
## 2. 正味財産増減計算書

正味財産増減計算書です。1年間の土地改良区の経営成績を表しています。日付は×1年4月1日から×2年3月31日となっています。貸借対照表のように次年度に繰り越すことはありません。1年限りの値（数字）です。



## 3. 貸借対照表

貸借対照表です。これは、決算日現在の、資産と負債、正味財産を集計した表です。日付は×2年3月31日現在となっています。



## 2. 正味財産増減計算書

×1年4月1日から×2年3月31日まで

単位：円

科目	当年度		
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収入			
土地改良事業収入	20,000,000		
所有土地改良施設受贈益	12,500,000		
経常収入計	32,500,000		
(2) 経常支出			
土地改良事業費	50,000		
減価償却費	12,500,000		
一般管理費	1,847,000		
土地改良事業負担金	10,000,000		
経常支出計	24,397,000		
当期経常増減額	8,103,000		
2 経常外増減の部			
(1) 経常外収入			
経常外収入計			
(2) 経常外支出			
支払利息	120,000		
経常外支出計	120,000		
当期経外常増減額	△120,000		
当期一般正味財産増減額	7,983,000		
一般正味財産期首残高	122,600,000		
一般正味財産期末残高	130,583,000		
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	△12,500,000		
指定正味財産期首残高	375,000,000		
指定正味財産期末残高	362,500,000		
III 正味財産期末残高	493,083,000		

## 3. 貸借対照表

貸借対照表  
×2年3月31日現在

単位：円

科目	当年度		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金及び預金	2,073,000		
未収賦課金等	5,000,000		
前払保険料	550,000		
流動資産合計	7,623,000		
2 固定資産			
(1) 基本財産			
山林、宅地及びその従物	100,000,000		
基本財産合計	100,000,000		
(2) 特定資産			
所有土地改良施設	362,500,000		
特定資産合計	362,500,000		
(3) その他固定資産			
建物	19,000,000		
車両運搬具	1,660,000		
器具備品	800,000		
適正化事業拠出金	1,500,000		
その他固定資産合計	22,960,000		
固定資産合計	485,460,000		
資産合計	493,083,000		
II 負債の部	0		
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
所有土地改良施設受贈益	362,500,000		
指定正味財産合計	362,500,000		
(うち基本財産への充当額)			
(うち特定財産への充当額)	362,500,000		
2 一般正味財産			
一般正味財産合計	130,583,000		
(うち基本財産への充当額)	100,000,000		
(うち特定財産への充当額)			
正味財産合計	493,083,000		
負債及び正味財産の合計	493,083,000		

## 4. 財務諸表に対する注記の作成と記載

複式簿記会計において、会計処理に関する重要な事項を、みだりに変更することがないようにし、会計処理の公平性を保持する必要があります。

関係者に対して、土地改良区の財務状況等につき、財務諸表に関する事項の詳細を示して説明する必要があります。

注記は、財務諸表本体の記載内容に関する重要事項を、財務諸表とは別の箇所に言葉や数値を用いて記載したものです。これにより、財務諸表本体の簡潔性が維持されるとともに、重要な情報が詳細に伝達されることになるため、注記は、会計情報の明解表示に役立っています。

土地改良区会計基準においては、財務諸表には、以下の事項を注記することとされています。

- ① 資産の評価基準及び評価方法、固定資産の減価償却方法、引当金の計上基準等財務諸表の作成に関する重要な会計方針
- ② 重要な会計方針を変更したときは、その旨、変更の理由及び当該変更による影響額
- ③ 基本財産及び特定資産の増減額並びにその残高
- ④ 基本財産及び特定資産の財源等の内訳
- ⑤ 担保に供している資産
- ⑥ 固定資産等の取得価額、減価償却累計額及び期末残高
- ⑦ 満期保有目的の債権の内訳並びに帳簿価格、時価及び評価損益
- ⑧ 補助金、助成金の内訳並びにその交付者、当期の増減額及び残高
- ⑨ 換地清算金徴収金（土地改良法第54条の3の規定に基づき徴収した金額（同法第89条の2第10項の規定により準用するものを含む。））の当期徴収額、換地清算金交付金（同法第89条の2第11項の規定により都道府県等から支払われた金額）の当期支払額及び換地清算金の当期末残高
- ⑩ 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳（建設仮勘定及び指定正味財産たる土地改良施設に係るものを除く。）
- ⑪ 関連当事者（当該土地改良区を支配する法人、当該土地改良区に支配される法人、当該土地改良区の役員及びその近親者）との取引の内容

土地改良区と密接な関係にある者との取引の内容を、関係者に対して開示することにより、土地改良区に関する財務諸表の情報開示の充実を図ることを目的として定められたものです。

### ⑫ 重要な後発事象

当期の決算日以降、財務諸表を作成する日までに発生した、火災・出水による重大な損害の発生、多額の土地改良区債の発行又は繰上償還、合併、重要な施設の譲渡又は譲受、重要な係争事件の発生・解決等、次期以降の土地改良区の運営に重要な影響を及ぼすものを後発事象といいます。

後発事象を開示することは、当該土地改良区の将来の財政状態及び経営成績を理解するための補足情報として有用といえます。

### ⑬ その他の土地改良区の収支及び財産増減の状況を明らかにするために必要な事項

## 4. 財務諸表に対する注記

### 1 重要な会計方針

- (1) 資産の評価基準及び評価方法
- (2) 有価証券の評価基準及び評価方法
- (3) 貯蔵品の評価基準及び評価方法
- (4) 固定資産の減価償却の方法
  - ① 土地改良施設等の減価償却の方法
  - ② その他固定資産の減価償却の方法
- (5) 繰延資産の減価償却の方法
- (6) 引当金の計上基準
- (7) 積立金の計上基準
- (8) リース取引の処理方法
- (9) 消費税等の会計処理
- (10) .....

### 2 重要な会計方針の変更

- (1) 会計処理の原則又は手続の変更  
変更なし
- (2) 表示方法の変更  
変更なし

### 3 基本財産、特定資産の増減額及びその残高

基本財産、特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	100,000,000	0	0	100,000,000
特定資産	375,000,000	0	12,500,000	362,500,000
合 計	475,000,000	0	12,500,000	462,500,000

### 4 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応す る額)
基本財産	100,000,000	0	100,000,000	0
特定資産	362,500,000	362,500,000	0	0
合 計	462,500,000	362,500,000	100,000,000	0

### 5 担保に供している資産

無し



## 6 固定資産等の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(1) 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高	(当期減価額)
建物	30,000,000	11,000,000	19,000,000	1,000,000
車両運搬具A	1,200,000	720,000	480,000	120,000
車両運搬具B	1,200,000	20,000	1,180,000	20,000
計	2,400,000	740,000	1,660,000	140,000
器具備品	2,000,000	1,200,000	800,000	200,000
合 計	34,400,000	12,940,000	21,460,000	1,340,000

(2) 所有土地改良施設の取得価額、減価償却累計額、当期減価額及び当期末残高は、次のとおりである。

① 所有土地改良施設

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高	(当期減価額)
所有土地改良施設	内訳 改良区 0	内訳 —	内訳 —	内訳 —
	国 250,000,000	68,750,000	181,250,000	6,250,000
	県 150,000,000	41,250,000	108,750,000	3,750,000
	市 100,000,000	27,500,000	72,500,000	2,500,000
合 計	500,000,000	137,500,000	362,500,000	12,500,000

② 受託土地改良施設使用収益権

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高	(当期減価額)
受託土地改良施設 使用収益権				
合 計				

(3) 土地改良施設建設仮勘定にかかる補助金相当額については、次のとおりである。

(単位：円)

当期末残高	左のうち国庫補助金等	
	国費	県費

## 7 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価格、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価格、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	帳簿価額	時 価	評価損益
合 計			

## 8 受取補助金等及び受取助成金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

受取補助金等及び受取助成金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交付者	前期末 残 高	当 期 増加額	当 期 減少額	当期末 残 高	貸借対照表上 の記載区分
補助金 〇〇補助金 .....						
小計						
助成金 〇〇助成金 .....						
小計						
合 計						

**9 換地清算金（土地改良法第54条の3の規定に基づき徴収した金額及び同法第89条の2第10項の規定において準用するものを含む。）徴収金の当期徴収額、換地清算金（同法第89条の2第11項の規定により県等から支払われた金額）交付金の当期支払額並びにこれら清算金の当期残高**

換地清算金徴収金の当期徴収額又は換地清算金交付金の当期支払額並びにこれら清算金の当期残高は、次のとおりである。

(単位：円)

換地清算金の区分	前期末 残 高 円	当期増加額 円	当 期 減少額 円	当期末 残 高 円	貸借対照表上 の記載区分	摘 要
換地清算金徴収金 ○○換地区 .....						
小 計						
換地清算金交付金 ○○換地区 .....						
小 計						
合 計						

**10 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳**

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
経常外収入への振替額 所有土地改良施設受贈益	12,500,000
合 計	12,500,000

**11 関連当事者との取引の内容**

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

(単位：円、%)

法人 等 の 名 称	住 所	資産 総額	事業の 内容又は 職業	関係内容		取 引 の 内 容	取 引 金 額	取 引 関 係 科 目	期 末 残 高	取 引 条 件 等
				役員 の 兼 務 等	事業上 の 関 係					

**12 重要な後発事象**

.....

※ 後発事象を開示する意義は、決算日後の事象の発生時と公表時とのタイムラグを埋め、関係者に対して土地改良区の財政状態と運営成績に対する理解を高めさせることにあります。

**13 その他**

## 5. 財産目録

財産目録は、貸借対照表を補完するものです。

当該事業年度末現在におけるすべての資産および負債につき、その名称、数量価額等を詳細に表示するものです。

① 財産目録の区分

財産目録は、貸借対照表の区分に準じて資産の部と負債の部に分け、正味財産の額を示さなければなりません。

② 財産目録の価額

財産目録の価額は、貸借対照表に記載の価額と同一です。

③ 財産目録の様式

財産目録の様式は、会計細則例に準拠して作成します。

なお、財産目録は特別会計を設けている場合においても、当該土地改良区全体について作成します。

④ 記載上の注意

款項の順は、おおむね財産目録科目例の順によること。

金額欄のうち右の2列には仕切り線を入れ、款の計、さらに、部の計を表記します。

## 5. 財産目録

財産目録  
×2年3月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金及び預金		
〇〇農協普通貯金	2,073,000	
未収賦課金等		
経常賦課金10人分	5,000,000	
前払保険料		
〇〇海上火災 土地改良施設管理者保険料	550,000	
流動資産合計		7,623,000
2 固定資産		
(1) 基本財産		
山林、宅地及びその従物		
宅地：事務所敷地300㎡	100,000,000	
基本財産合計		100,000,000
(2) 特定資産		
所有土地改良施設		
用水路〇〇町〇番地他400筆	362,500,000	
特定資産合計		362,500,000
(3) その他固定資産		
建物		
事務所 鉄骨造り3階、300㎡	19,000,000	
車両運搬具		
トヨタバン A	480,000	
トヨタバン B	1,180,000	
器具備品		
測量機器（トータルステーション）1台	800,000	
適正化事業拠出金	1,500,000	
その他固定資産合計		22,960,000
固定資産合計		485,460,000
資産合計		493,083,000
II 負債の部		
1 流動負債		
流動負債合計	0	0
2 固定負債		
固定負債合計	0	0
負債合計		0
III 正味財産の部		
1 指定正味財産	362,500,000	
指定正味財産合計		362,500,000
2 一般正味財産	130,583,000	
一般正味財産合計		130,583,000
正味財産合計		493,083,000